DocuPrint C1255

取扱説明書（本体管理編）

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。
万一故障などが発生した場合、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制(電波規制や材料規制など)は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科されることがあります。

はじめに

このたびはDocuPrint C1255をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本機を初めてご使用になるかたを対象に、本機の日常の管理方法、および使用上の注意事項を記載しています。
製品の性能を十分に発揮させ有効的にご利用いただくために、本書を最後までお読みください。
本書を読まれたあとも必ず保管してください。機械をご使用中に、操作上でわからないことや機械に不具合を生じたときに読み直してご活用いただけます。

1999年　7月
富士ゼロックス株式会社

この取扱説明書のなかで ⚠ と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

弊社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

弊社は、製品の研究開発から廃棄にいたる事業活動全般において、地球環境の保全を経営の重要課題のひとつに位置づけております。これまでも環境負荷を低減するために、生産施設におけるフロンの全廃など、さまざまな活動を展開してまいりました。
また、お客様の身近なところでは、複写機やプリンターで使用した用紙、消耗品のカートリッジやパーツなどのリサイクルを推進することにより、今後も資源の保護に積極的に取り組んでまいります。
このような活動の一環として、DocuPrint C1255に、弊社の品質基準に適合したリサイクル・パーツを使用しております。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

受信障害について
ラジオの雑音、テレビなどの画面に発生するチラツキ、ゆがみがこの商品による影響と思われましたら、この商品の電源スイッチを一旦切ってください。電源スイッチを切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、次の方法を組み合せて障害を防止してください。
・本機とラジオやテレビ双方の位置や向きを変えてみる。
・本機とラジオやテレビ双方の距離を離してみる。
・この商品とラジオやテレビ双方の電源を別系統のものに変えてみる。
・受信アンテナやアンテナ線の配置を変えてみる。（アンテナが屋外にある場合は電気店にご相談ください。）
・ラジオやテレビのアンテナ線を同軸ケーブルに変えてみる。

本機器は社団法人日本事務機械工業会が定めた複写機及び類似の機器の高調波対策ガイドライン（家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに準拠）に適合しています。

目次

4章　トラブルと思ったら

5章　日常の管理

付録

本書の構成

本書は、以下の構成になっています。

第1章　お使いいただく前に

各部の名称、電源の入れ方/切り方、タッチパネルディスプレイの使い方など、印刷操作をする前に理解していただきたいことがらを説明しています。本機の設置が終了したらまずお読みください。

第2章　用紙のセット

本機で使用できる用紙の仕様、用紙の取り扱いに関する注意事項、用紙の補給方法について説明しています。
用紙をセットするときにお読みください。

第3章　機械管理者画面の設定（仕様設定）

より便利に印刷をするために、初期値、音や時間に関する設定など、仕様を日常の印刷の使い方に合わせて設定しておくことができます。仕様を設定するときにお読みください。

第4章　トラブルと思ったら

用紙がつまったとき、エラーメッセージが表示されたときなどの対処方法を説明しています。トラブルが発生したらここをお読みください。

第5章　日常の管理

トナーカートリッジなどの消耗品の交換やメーターの確認など、本機の日常の管理について説明しています。必要に応じてお読みください。

付録

主な仕様、EPシステムについて説明しています。

本書の表記

本書では、以下の表記を使用しています。

補足	操作や機能の補足を表すマークです。
参照	参照先を表すマークです。
注記	操作に関する注記を表すマークです。

安全にご利用いただくために

機械を安全に利用していただくために、本機をご使用になる前に必ず「安全にご利用いただくために」を最後までお読みください。

各図記号は以下のような意味を表しています

⚠警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性があると思われる事項があることを示しています。

⚠注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負うことが想定される内容および物的損害の発生が想定される事項があることを示しています。

△ 記号は、製品を取り扱う際に注意すべき事項があることを示しています。指示内容をよく読み、製品を安全にご利用ください。

高温注意
発火注意
感電注意
指はさみ注意

⃠ 記号は、行ってはならない禁止事項があることを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。

禁　止
火気禁止
分解禁止
接触禁止

● 記号は、必ず行っていただきたい指示事項があることを示しています。指示内容をよく読み、必ず実施してください。

指　示
プラグを抜　け
アースを接続せよ

設置および移動時の注意

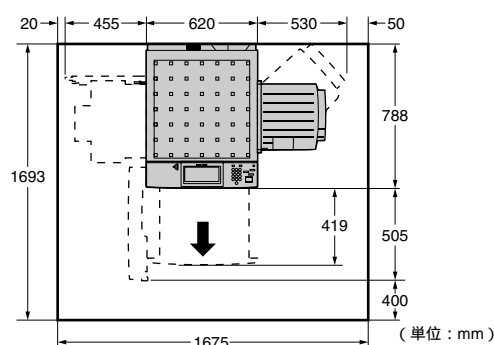
⚠注意

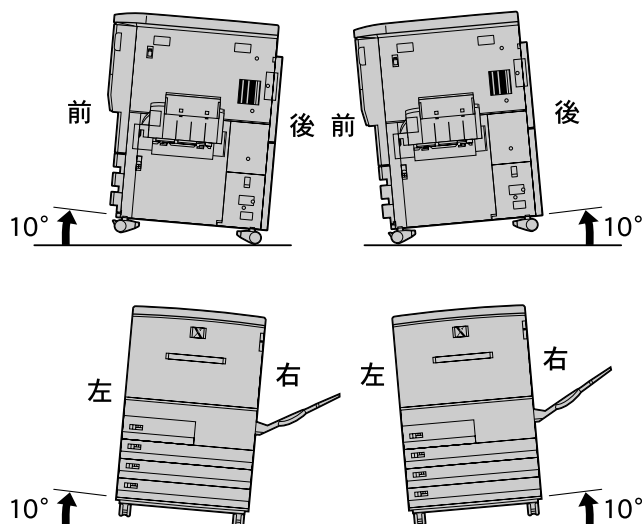
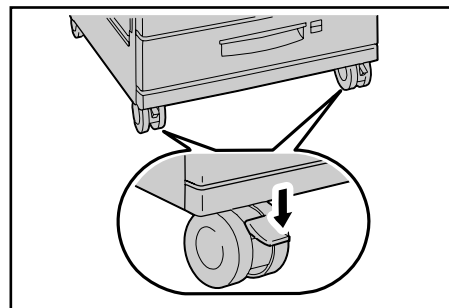
⃠高温、多湿の場所や換気が悪くホコリの多い場所には機械を設置しないでください。発熱による火災や感電の原因となるおそれがあります。

⃠ストーブやヒーターなどの発熱器具に近い場所、揮発性可燃物やカーテンなどの燃えやすいものに近い場所には機械を設置しないでください。火災の原因となるおそれがあります。

❗機械は、重さ181kg（本体のみ）に耐えられる丈夫で水平な場所に設置してください。機械の転倒などによりケガの原因となるおそれがあります。

❗機械を移動するときは、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。

❗機械の底面には通気口があります。通気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となるおそれがあります。
また、機械の操作および消耗品類の交換、日常の点検など、機械を正しく使用し、機械の性能を維持するために、下図の設置スペース（本体のみ）を確保してください。なお、取り付けは弊社担当者におまかせください。

機械を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードが傷つき、発熱による火災や感電の原因となるおそれがあります。

機械を移動する場合は、機械を10度以上（本体のみ）に傾けないでください。
転倒などによるケガの原因となるおそれがあります。

機器を設置した後は、キャスターについている移動防止用ストッパーを必ずロックしてください。
ストッパーをロックしないと、機械が思わぬ方向に動き、ケガの原因となるおそれがあります。

その他

- いつも良い状態でご使用いただける環境の範囲は次のとおりです。
  温度10～35℃、湿度15～85%（結露がないこと）
  温度が35℃のときは湿度47.5%以下、湿度が85%のときは温度27.8℃以下でお使いください。

  補足
  冷えきった部屋を暖房器具などで急激に暖めると、機械の内部に水滴が付着し部分的に印刷できない場合があります。
- 直射日光の当たる場所には機械を置かないでください。故障の原因となることがあります。

電源およびアース接続時の注意

警告

電源プラグは、定格電圧100Vで、定格電流15A以上のコンセントに単独で差し込んでください。また、たこ足配線をしないでください。発熱による火災や感電のおそれがあります。なお、本機の定格電源は100V、15Aとなっています。

電源プラグやコンセントに付着したホコリは、必ず取り除いてください。そのまま使用していると、湿気などにより表面に微小電流が流れ、発熱による火災のおそれがあります。

延長コードは、定格（125V、15A）未満のものは使用しないでください。発熱による火災のおそれがあります。なお、延長コードが必要な場合は、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご相談ください。

電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したりしないでください。また重いものを載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、発熱による火災や感電のおそれがあります。

電源プラグは絶対に濡れた手で触らないでください。感電のおそれがあります。

次のようなときには直ちに使用を中止し、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。そのまま使用を続けると火災のおそれがあります。
- 機械から発煙したり、機械の外側が異常に熱くなったとき
- 異常な音やにおいがするとき
- 機械の内部に水が入ったとき

万一漏電した場合の感電や火災事故を防ぐため、電源プラグから出ているアース線を、必ず次のいずれかに取り付けてください。
● 電源コンセントのアース端子
● 銅片などを650mm以上地中に埋めたもの
● 接地工事（第3種）を行っている接地端子
ご使用になる電源コンセントのアースをご確認ください。アースが取れない場合や、アースが施されていない場合は、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご相談ください。次のようなところには、絶対にアース線を接続しないでください。
● ガス管（引火や爆発の危険があります。）
● 電話専用アース線および避雷針（落雷時に大量の電気が流れる場合があり危険です。）
● 水道管や蛇口（配管の途中がプラスチックになっている場合はアースの役目を果たしません。）

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）弊社のテレフォンセンターまたは販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電のおそれがあります。

⚠注意

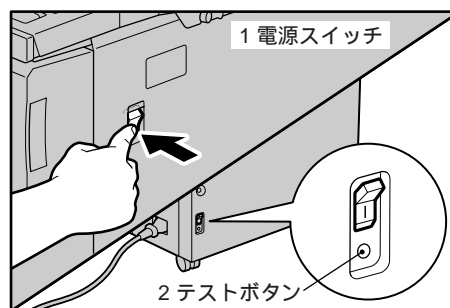
機械の電源スイッチを入れたままでコンセントからプラグを抜き差ししないでください。アークによりプラグが変形し、発熱による火災の原因となるおそれがあります。

電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災、感電の原因となるおそれがあります。

1か月に一度は機械の電源スイッチを切り、次のような点検をしてください。なお、異常がある場合は弊社のテレフォンセンターまたは販売店までご連絡ください。
● 電源プラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていますか。
● 電源プラグに異常な発熱およびサビ、曲がりなどはありませんか。
● 電源プラグやコンセントに細かいホコリがついていませんか。
● 電源コードにき裂やすり傷などはありませんか。

連休などで長期間、機械をご使用にならないときは、安全のために電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となるおそれがあります。

機械には漏電保護回路がついています。1か月に一度は機械の電源スイッチを切り、漏電保護回路が正常に働くかを確認してください。正常に動作しない場合にアースが接続されていないと、感電の原因となるおそれがあります。
なお、漏電保護回路の確認手順は以下のとおりです。異常などがある場合は弊社のテレフォンセンターまたは販売店までご連絡ください。

1. 電源スイッチを「⏻」（切）にします。
2. ボールペンなどの先で、ブレーカースイッチの下にあるテストボタンを押します。
   ブレーカースイッチが「｜」から「○」に倒れれば、正常に作動しています。
3. 確認後、ブレーカースイッチ、電源スイッチの順に「｜」（入）にします。

機械の清掃および保守、故障の処置を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃や保守を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

インターフェイスケーブルを接続するときは、必ず本機とホスト装置の電源スイッチを切ってください。感電の原因となることがあります。

その他

● 機械には、落雷によるサージ電流からの保護回路が内蔵されています。付近に落雷が発生したときは電源を切り、電源コードを機械から外して、雷がおさまるのを待ってください。

機械使用上の注意

⚠警告

⃠機械の上に花瓶、植木鉢、コップなど水の入った容器を置かないでください。水がこぼれた場合、火災や感電のおそれがあります。

⃠機械の上に金属類を置かないでください。すき間から内部に、クリップやホチキスの針のような金属類や燃えやすいものが入り込むと、機械内部がショートし、火災や感電のおそれがあります。

万一、異物（金属片、水、液体）が内部に入った場合は、まず本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電のおそれがあります。

ネジで固定されているパネルやカバーなどは、取扱説明書で指示している箇所以外絶対に開けないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。

機械を改造したり、部品を変更して使用しないでください。火災のおそれがあります。

この商品は、レーザーの国際規格IEC825（Class1）に適合しています。このことはレーザー被爆の危険がないことを意味しています。レーザーは商品内部で放射されますが、部品内部の漏洩防止筐体やカバーなどによって内部に閉じ込められています。従って、お客様が使用される場合はレーザーは被爆しません。取扱説明書に書かれていること以外の、カバーを外すなどの操作はしないでください。レーザーの被爆の原因になることがあります。

⚠注意

⃠機械の安全スイッチに磁気を帯びたマグネット類を近づけないでください。機械が作動状態になる場合があり、ケガの原因となるおそれがあります。

⃠機械の近くまたは内部で強燃性スプレーや引火性溶剤を使用しないでください。引火による火災の原因となるおそれがあります。

⃠操作パネルのタッチパネルディスプレイの上に重い物を載せたり、ひじをついたりしないでください。ガラスが破損し、ケガをする原因となるおそれがあります。

⃠電気を通しやすい紙（折り紙・カーボン紙・コート紙など）は使用しないでください。紙づまりのときにショートして火災の原因となるおそれがあります。

「高圧注意」を促すラベルが貼ってある箇所には、絶対に触れないでください。感電の原因となることがあります。

「高温注意」を促すラベルが貼ってある周辺（定着部やその周辺）には、絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。
なお、定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときには無理に取らないでください。ケガややけどの原因となります。直ちに電源スイッチを切り、弊社のテレフォンセンターまたは販売店 にご連絡ください。

❗用紙トレイを引き出すときはゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

❗つまった用紙を取り除くときは、機械内部に紙片が残らないようすべて取り除いてください。紙片が残ったままになっていると火災の原因となるおそれがあります。なお、紙片や用紙が定着部の見えない部分およびローラーに巻き付いているときは、無理に取らないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。直ちに電源スイッチを切り、弊社のテレフォンセンターまたは販売店に連絡してください。

❗狭い部屋で長時間使用する場合は、部屋の換気に注意してください。頭痛などの原因となるおそれがあります。

その他

- 紙づまりの処置や故障の処置を行うときは、本書をよくお読みください。
- 排出トレイは、正しく取り付けてご使用ください。排出トレイを取り付けないで印刷をすると、紙づまりの原因になります。

消耗品取扱上の注意

⚠ 警告

⊘トナーカートリッジを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

⊘トナー、または使用済みのトナー回収ボトルを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

⊘現像剤、または使用済みの現像剤回収ボトルを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

⚠ 注意

❗ドラムカートリッジを勢いよく引き出さないでください。ドラムカートリッジが飛び出し、けがの原因となるおそれがあります。

⚠クリーニングカートリッジは、高温になっいます。充分冷えてから操作してください。転写ユニットを引き出した状態で約20分放置すると、クリーニングカートリッジ中央部の取っ手の温度が安全に操作できる温度（70℃）になります。

⚠クリーニングカートリッジを取り外した本体の内部は熱いので、シャッターの中には決して手を差し込まないでください。また、本体の内部に異物が落下した場合には、無理にとらないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。直ちに、電源スイッチを切り、弊社のテレフォンセンターまたは販売店に連絡してください。

⚠クリーニングカートリッジは、外部が冷えた状態でも内側は高温になっています。取っ手以外の箇所には、触れないように注意して交換してください。

その他

● 消耗品は、ご使用になるまでは開封せずに、次のような場所を避けて保管してください。
- 高温、多湿の場所
- 火気のある場所
- 直射日光の当たる場所
- ホコリが多い場所

● 消耗品を使用するときは、消耗品の箱や容器に記載された「取り扱い上の注意」をよく読んでから使用してください。

● 回収したトナーカートリッジ、ドラムカートリッジは環境保護・資源有効活用のため、リサイクルしています。

－取り扱い上の注意－

不要となりましたトナーカートリッジ、ドラムカートリッジは適切な処置が必要です。必ず弊社または販売店にお渡しください。

● 以下の事項に従って、応急措置を行ってください。
- トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- トナーが皮膚に付着した場合は、せっけんを使ってよく洗い流してください。
- トナーを吸入した場合は、暴露環境から離れて、多量の水でよくうがいをしてください。
- トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだ物を吐き出させ、速やかに医師に相談し指示を受けてください。

● オイルカートリッジは消防法「第四類第四石油類」に該当します。

－取り扱い上の注意－

取り扱いは弊社のカストマーエンジニアにおまかせください。

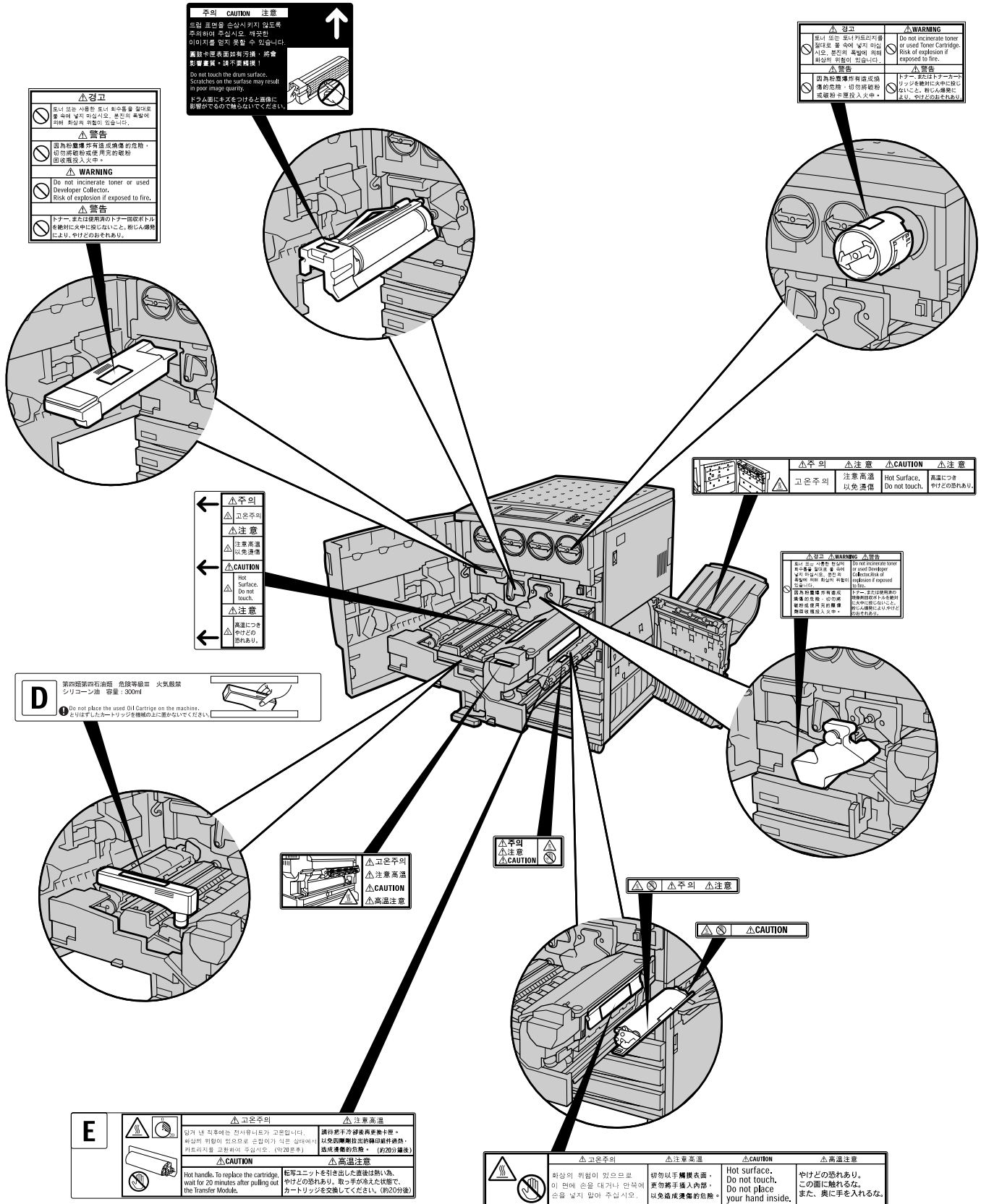
電源を切るときの注意

その他

● 電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データやプリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

通常の操作時に電源を切るときは、タッチパネルディスプレイに「プリントできます。」が表示されていることを確認してから、電源を切ってください。

■警告および注意ラベルの貼付位置

本機には、安全にお使いいただくために以下のような警告ラベルおよび注意ラベルが機械内部に貼ってあります。指示内容をよく読み、安全にご利用ください。

国際エネルギースター
プログラムの目的

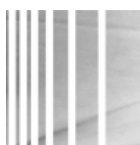
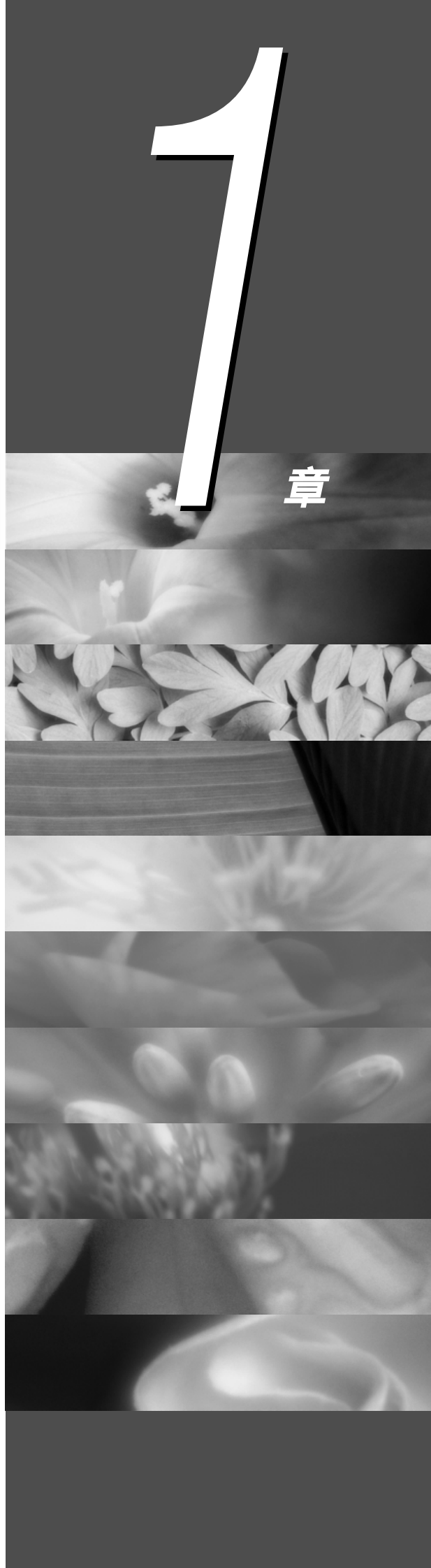
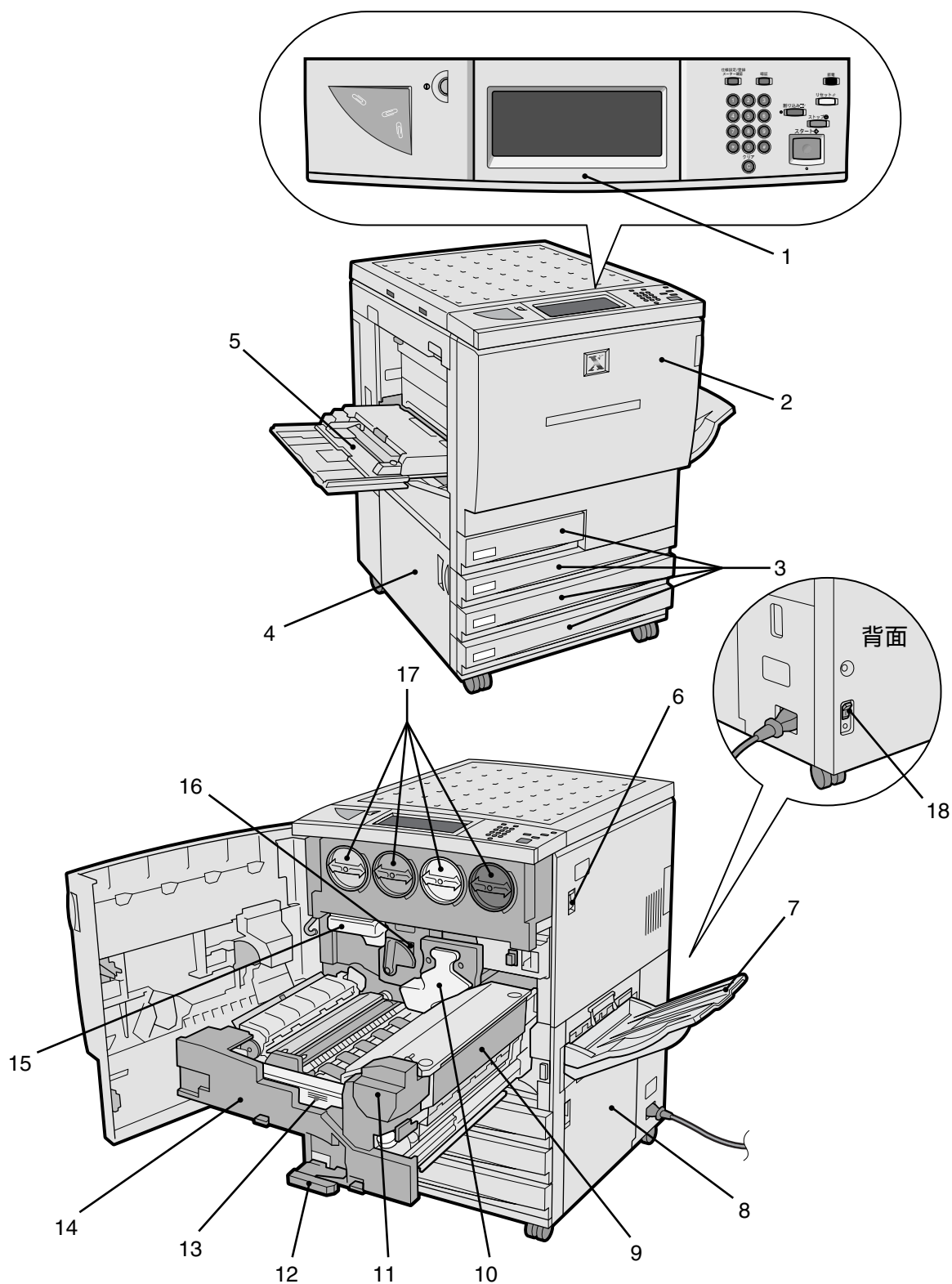
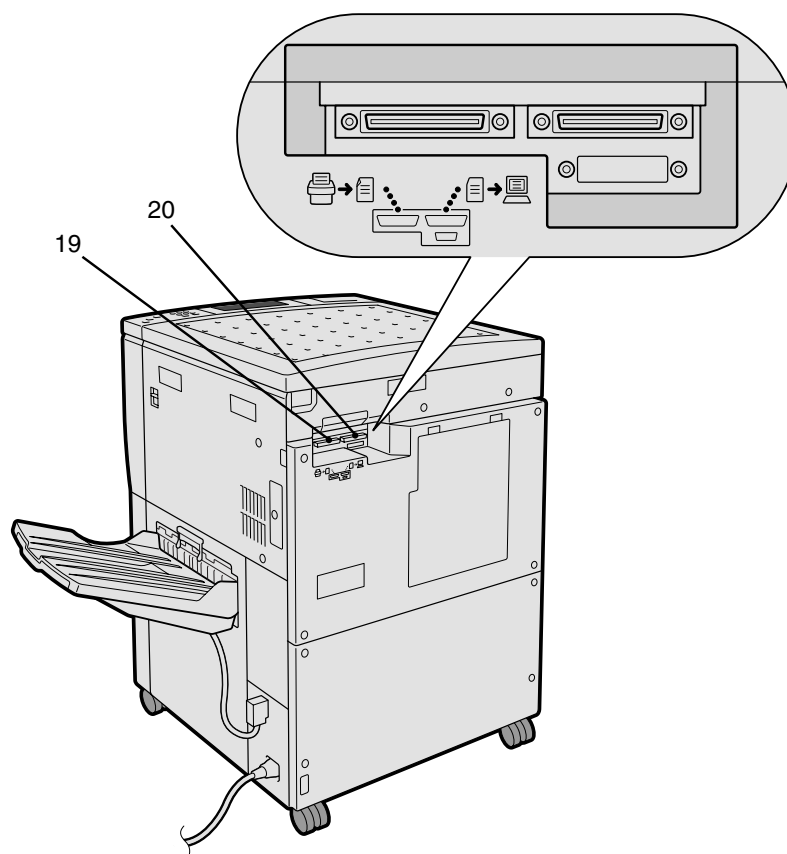
国際エネルギースタープログラムは、大切な地球環境を守るために以下のような方法を推奨し、エネルギーを節約することを目的にしています。本機は、この国際エネルギースタープログラムの基準に適合しています。

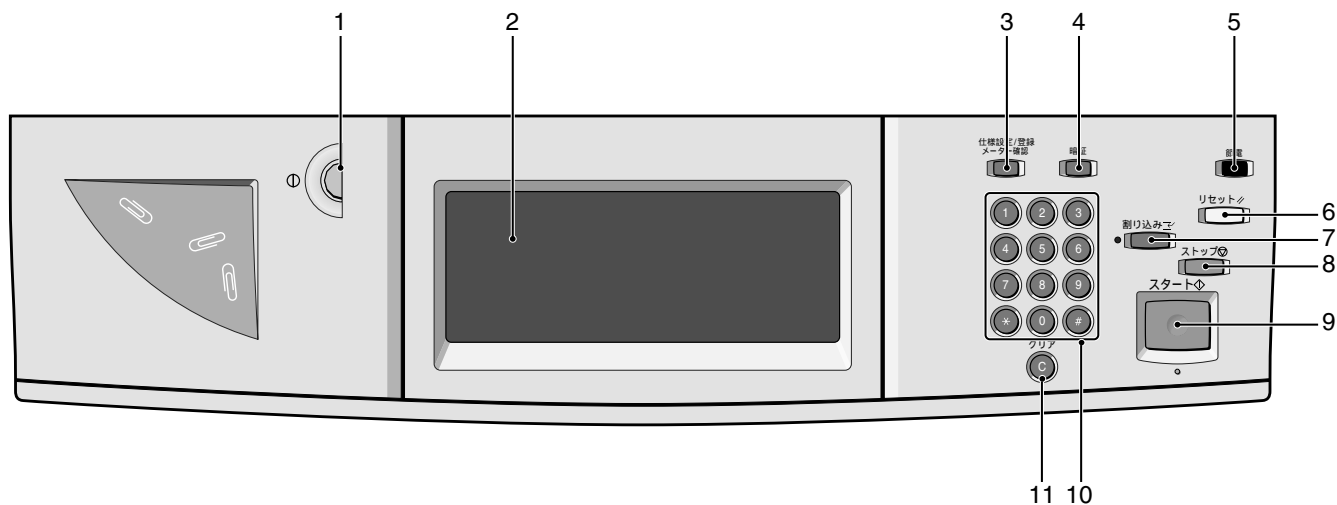
■低電力モードについて

本機は電力消費量を軽減するために、自動的に消費電力を節約する機能を持っています。工場出荷時の設定では60分以上この機器が使用されなかった場合に、自動的に機械の消費電力を節約するようになっています。この設定は、15～240分の間で1分刻みに設定できます。操作の詳細については、本書の「3.2 機械管理者画面の概要」の「■タイマー設定」をごらんください。なお、設定画面では「低電力モード」は、「節電スリープモード」と表示されます。

1章

お使いいただく前に

1.1 各部の名称と働き

<外観>

番号	名称	働き
1	操作パネル	操作に必要なボタン、ランプ、タッチパネルディスプレイがあります。
2	フロントカバー	紙づまりの処置をするときや、消耗品を交換するときに開けます。
3	用紙トレイ1、2、3、4	ここに用紙をセットします。
4	左側面下部カバー	紙づまりの処置をするときに開けます。
5	用紙トレイ5（手差し）	用紙トレイ1、2、3、4にセットできない用紙（OHPフィルムや厚紙などの特殊用紙）をコピーするときに使用します。
6	電源スイッチ	機械の電源を入/切するスイッチです。
7	排出トレイ	印刷されたものがここに排出されます。
8	右側面下部カバー	紙づまりの処置をするときに開けます。
9	クリーニングカートリッジ[E]	定着部内をクリーニングするシートです。
10	現像剤回収ボトル[C]	使用済みの現像剤が回収されます。
11	定着部	トナーを用紙に定着させる部分です。高温なので触れないように注意してください。
12	レバー	転写ユニットを引き出すためのレバーです。
13	オイルカートリッジ[D]	定着部にオイルを供給します。
14	転写ユニット	消耗品D、Eの交換や、紙づまりを処置するときに引き出します。
15	トナー回収ボトル[A]	使用済みのトナーが回収されます。
16	ドラムカートリッジ[B]	感光体などがセットされています。
17	トナーカートリッジ	シアン[C]、マゼンタ[M]、イエロー[Y]、ブラック[K]４色のトナー(画像形成剤)が入っています。
18	ブレーカースイッチ	漏電を検知すると、自動的に電源を遮断するスイッチです。 通常は「｜」（入）にしておきます。
19	プリント用コネクタ	プリント用のインターフェイスケーブルを接続します。
20	スキャン用コネクタ	スキャン用のインターフェイスケーブルを接続します。

<操作パネル>

番号	名称	働き
1	輝度調整ダイヤル	タッチパネルディスプレイの明るさを調整します。画面が暗いときや明るすぎるときはこのダイヤルで調整してください。
2	タッチパネルディスプレイ	操作に必要なメッセージや各機能のボタンが表示されます。このタッチパネルディスプレイに直接触れて、画面の指示や機能の設定をします。
3	仕様設定/登録 メーター確認ボタン	機械管理者が機械の仕様を設定したり、メーターの確認や消耗品の確認をするときに押します。
4	暗証ボタン	本機では使用しません。
5	節電ボタン	節電中に点灯します。節電モードを解除するときに押します。
6	リセットボタン	本機では使用しません。
7	割り込みボタン/ランプ	本機では使用しません。
8	ストップボタン	本機では使用しません。
9	スタートボタン	本機では使用しません。
10	数字ボタン	数値を入力するときに押します。
11	C（クリア）ボタン	数字ボタンによる数値の入力を間違えたときに押します。

1.2 電源を入れる/切る

操作を始めるときには電源を入れます。電源を入れてから9分10秒程度で印刷できる状態になります。
長時間印刷しない場合や1日の終わりには電源を切ってください。また、しばらく印刷しないときには、節電機能を使用すると、機械の消費電力量を下げ、電力を節約することができます。

参照 「1.2.2 節電について」

1.2.1 電源を入れる/切る

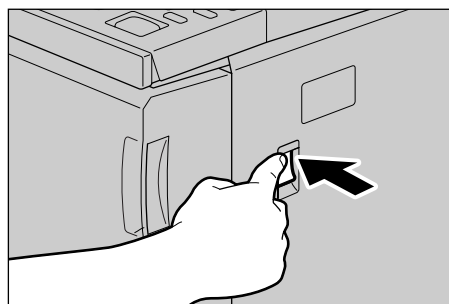
■電源を入れる

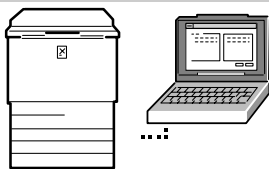
参照 使用する電源についての注意は、「安全にご利用いただくために」を参照してください。

注記 ● ホスト装置を接続した場合は、プリンターの電源を入れる前に、ホスト装置の電源が入っていることを確認してください。

注記
●電源を切った直後に再び入れるときは、本機に外部のプリントサーバーを接続している場合は、5秒以上待ってください。それ以外の場合の待ち時間は、接続している機器の説明書を参照してください。

操作手順

1 **電源スイッチを「｜」（入）にします。**

タッチパネルディスプレイに以下の画面が約10秒表示されます。

「お待ちください。約 ×分」（×には数字が表示されます）とメッセージが表示されます。
×分が経過すると、メッセージが「プリントできます。」に変わります。

■電源を切る

注記 ● 電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報は消去されます。

注記

- 以下の状態の場合は、電源を切らないでください。
  - ・データの受信が行われている
  - ・印刷処理が行われている
  - ・エラーが発生している
- 再度、電源を入れるときは、本機に外部のプリントサーバーを接続している場合は、5秒以上待ってください。それ以外の場合の待ち時間は、接続している機器の説明書を参照してください。

補足

- 電源スイッチを切ったあとも、機械内部のファンは約1時間、回り続けます。

操作手順

1 **印刷が完全に終了していることと、ディスプレイに「プリントできます。」が表示されていることを確認し、電源スイッチを「⏻」（切）にします。**

画面が暗くなり電源が切れます。

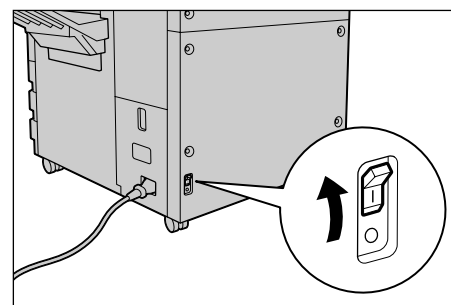
■ブレーカースイッチについて

補足

- ブレーカースイッチは、漏電を検知すると自動的に電源を遮断します。通常は操作しないでください。
- ブレーカースイッチを切る場合は、電源スイッチが切れていることを確認してください。

参照

「安全にご利用いただくために」

ブレーカースイッチは、通常、右図のように上「｜」（入）にしておきます。
長期間使用しない場合や移動する場合は、スイッチを下に倒します。

1.2.2　節電について

本機には、しばらく印刷しないときに機械の消費電力量を下げて、電力を節約する「節電機能」が搭載されています。

節電スリープモード（消費電力7W以下：通常待機時330W）（本体のみ）
操作パネルや定着部の電力を下げます。節電中は、ディスプレイは消灯し、操作パネルの 節電 ボタンが点灯します。

■自動的に節電モードに入る

本機を一定時間使用しないと、自動的に「節電スリープモード」に入ります。

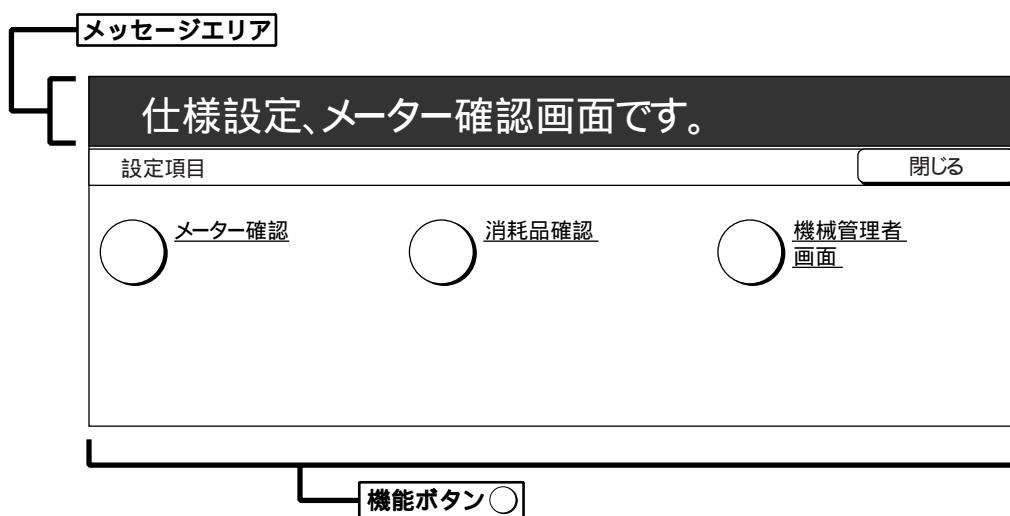
補足
- 節電 ボタンを押しても、節電モードには入りません。
- 印刷終了後から「節電スリープモード」に移行する時間は、工場出荷時に60分が設定されています。この移行時間は、機械管理者画面で変更することができます。詳細は、「3章 機械管理者画面の設定（仕様設定）」を参照してください。

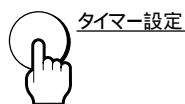
■節電モードを解除する

「節電スリープモード」を解除するときは、節電 ボタンを押します。また、ホスト装置側からのデータを受信したときは、自動的に解除されます。

1.3 タッチパネルディスプレイの使い方

タッチパネルディスプレイは操作パネルの中央にあり、操作に必要なメッセージや機能ボタンが表示されます。
ディスプレイに直接指で触れることによって、機能を設定したり、画面を指示したりすることができます。ここでは、主な画面を例にして、画面の表示内容や機能ボタンの選択方法などを説明します。
本文中では、タッチパネルディスプレイを「ディスプレイ」と略します。また、ディスプレイに表示される内容を「画面」と呼びます。

■ディスプレイ

- **メッセージエリア**
  機械の状態や操作のガイドなどのメッセージが表示されます。

- **機能ボタン**
  ボタンを押して機能の設定画面を開きます。

- **閉じる ボタン**

閉じる　画面で指定した機能や数値を設定して、その画面を閉じます。

設定項目　作業終了

用紙トレイの設定　音の設定　タイマー設定　管理者暗証番号の設定

その他の設定　点検/修理依頼

機能ボタン◯

タイマー設定　閉じる

設定項目	現在の設定値
─	─
─	─
─	─
管理者モード自動解除	10分
─	─

確認/変更

入力領域

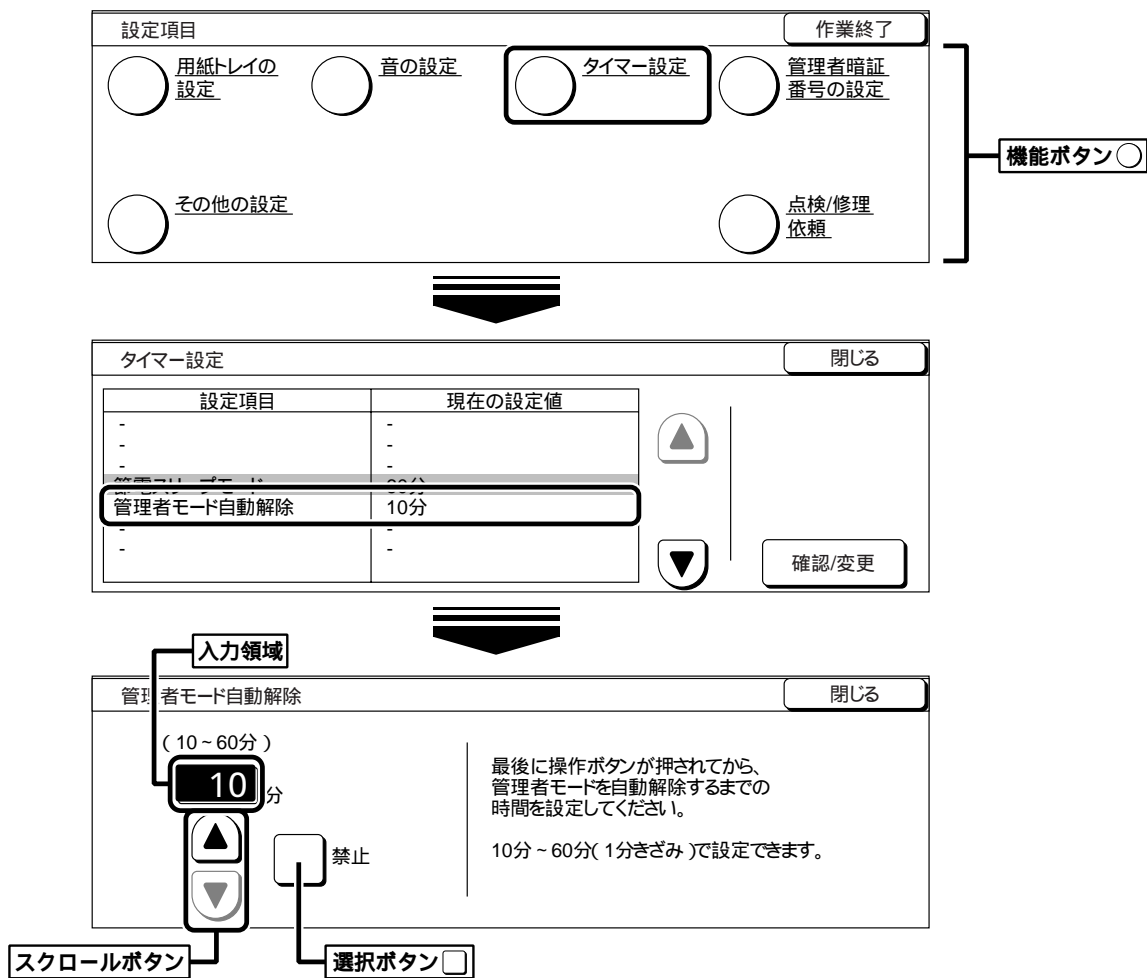
管理者モード自動解除　閉じる

（10～60分）

10 分

禁止

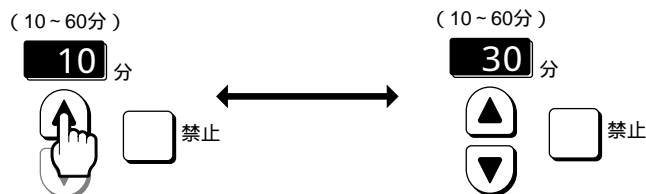
最後に操作ボタンが押されてから、
管理者モードを自動解除するまでの
時間を設定してください。

10分～60分（1分きざみ）で設定できます。

スクロールボタン　選択ボタン▢

● 選択ボタン

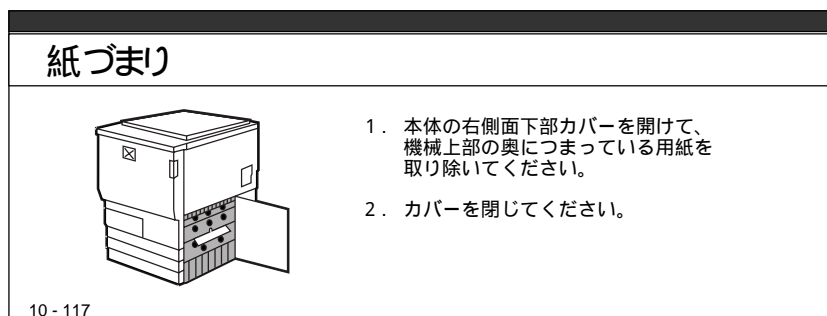
選択すると、ボタンが反転表示されます。

● スクロールボタン、入力領域

▲ ▼ を押して表示をスクロールし、数値や機能を選択します。数値の場合は、押し続けると表示が早く変わります。
（　）には設定できる範囲が表示されています。設定した数値は入力領域に表示されます。

● 選択できないボタン

▼ 設定できない範囲のボタンは、グレイに薄く表示されます。

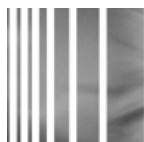
■エラー状態表示画面

紙づまりなどのトラブルや消耗品の交換など、そのまま印刷を続けると不具合がある場合、以下のような画面が表示されます。画面のメッセージに従って、エラー状態を解除してください。エラー状態を解除すると、通常画面に戻ります。

■節電画面

機械が「節電スリープモード」に入ると、ディスプレイは消灯し、節電ボタンが点灯します。
節電を解除するときは、節電ボタンを押します。また、ホスト装置側からのデータを受信したときは、自動的に解除されます。

参照　「1.2.2 節電について」

補足　● 節電ボタンが点灯していないのにディスプレイが暗いときは、電源が切れているか、ディスプレイが暗く設定されている可能性があります。電源スイッチ、またはディスプレイの輝度調節ダイヤルを確認してください。

用紙のセット

2章

2.1 用紙について

本機では以下の用紙が使用できます。より鮮明な画質を得るためには、弊社推奨の用紙をご利用いただくことをお勧めします。なお、推奨の用紙以外を使用するときは、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にお問い合わせください。

■富士ゼロックス推奨紙

P紙、L紙、J紙、JD紙、V516/V556OHPフィルム、Green100紙、C^{2}紙

推奨紙以外にも以下の用紙が使用できます。ただし、使用する場合は、本書に従って、印刷する用紙に適応しているトレイにセットし、用紙サイズと紙質を選択して印刷してください。

- R紙、S紙、WR紙、カラーペーパー、デジタルコート紙、ラベル用紙（A4サイズのカットなし）、4連はがき用紙、官製はがき、第二原図用紙、電飾フィルム、タックフィルム（粘着シート）、布転写用紙、アート紙など
- 上記以外の用紙を使用する場合は、弊社のテレフォンセンターまたは 販売店へお問い合わせください。

■使用できる用紙の範囲

各トレイで使用できる用紙の範囲は、以下のとおりです。

トレイ	用紙サイズ	用紙の質量		紙質	主な用紙の種類	セット可能枚数
		メートル坪量*1	連量*2			
トレイ1	A4□	64 ～ 105未満g/m^2	55～ 90未満kg	普通紙	P紙,L紙,J紙,JD紙, Green100紙,C^{2}紙, R紙,WR紙, カラーペーパー	560枚(P紙) 530枚(J紙)
トレイ 2、3、4	B5□*3,B5,A4□,A4,B4,A3, 8×10"□,8.5×11"□, 8.5×11",8.5×13", 8.5×14",11×17", 八開,十六開	64～128g/m^2	55～ 110kg	普通紙 64～105未満g/m^2	P紙,L紙,J紙,JD紙, Green100紙,C^{2}紙, R紙,WR紙, カラーペーパー	620枚(P紙) 580枚(J紙)
				厚紙1 105～128g/m^2	*4	
トレイ5 (手差し)	[定型外サイズ] 短辺 148～297mm 長辺 200～432mm [定型サイズ] 官製はがき,A5,B5,A4□, A4,B4,A3,SRA3*5 5.5×8.5",8×10"□, 8.5×11"□,8.5×11", 8.5×14",11×17", 12×18"*6	64～256g/m^2	55～ 220kg	普通紙 64～105未満g/m^2	P紙,L紙,J紙,JD紙, Green100紙,C^{2}紙, R紙,WR紙, カラーペーパー	15mmまで 150枚(P紙) 140枚(J紙)
				厚紙1 105～163未満g/m^2	*4	
				厚紙2 163～256g/m^2	デジタルコート紙 官製はがき	
				OHP/電飾フィルム*7	V516 (白黒用) V556 (カラー用)	
				タック紙	タックフィルム (粘着シート)	
				第二原図	GX75,GX85	

*1 *2 メートル坪量とは、1m^{2}の用紙1枚の質量をいいます。連量とは、四六判（788×1,091mm）の用紙1,000枚の質量をいいます。
*3　B5□は、紙質が普通紙の場合です。厚紙をセットするときは、B5にセットしてください。
*4　厚紙1に印刷する場合は、用紙をよこ向きにセットしてください。（例えばA4サイズの場合は、A4□ではなく、A4にセットします。）
*5 *6 SRA3（320×450mm/12.6×17.7インチ）と12×18インチサイズの用紙に印刷するときは、用紙ガイドを移動してからセットします。
*7　OHP/電飾フィルムは、A4□、A4、A3サイズだけです。V515のOHPフィルムは、紙づまりを防ぐため、A4よこ向きにセットしてください。
また、電飾フィルム（A3のOHPフィルム）は、1枚ずつセットして印刷してください。

注 記　● プリンタードライバーで選択した用紙サイズや用紙紙質と異なる用紙で印刷したり、適応していない用紙トレイにセットして印刷すると、紙づまりの原因になります。適正な印刷をするために、正しい用紙サイズ、用紙紙質、用紙トレイを選択してください。

補 足　● 用紙トレイにセットできる用紙サイズは、カストマーエンジニアの設定によって、以下のように変更できます。弊社のテレフォンセンターまたは販売店にお問い合わせください。
・用紙トレイ1は、A5、B5、8.5×11インチのいずれかのサイズに変更できます。
・用紙トレイ2、3、4は、12×18インチ、または定型外サイズ（短辺182〜297mm、長辺200〜432mm）をセットできます。
● 用紙トレイ2、3、4に厚紙をセットする場合は、用紙紙質の設定を変更してください。用紙紙質の変更は、機械管理者が設定します。設定のしかたについては、「3.2 機械管理者画面の概要」を参照してください。

■用紙の保管と取り扱い

用紙を保管するときは、以下のことに気をつけてください。

- 用紙はキャビネットの中や湿気の少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、紙づまりや画質不良の原因となります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。このとき、防湿剤を入れることをお勧めします。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。

用紙をトレイにセットする前に以下の事項を守ってください。

- バラバラになった用紙を寄せ集めて使用しないでください。
- 折りめ、シワの入った用紙は使用しないでください。
- サイズの異なる用紙を重ねてセットしないでください。
- OHPフィルムやラベル用紙は、紙づまりしたり複数枚同時に送られることがあるので、よくさばいてからご使用ください。

2.2 用紙をセットする

ここでは、用紙トレイ1、2、3、4と用紙トレイ5（手差し）に用紙をセットする方法について説明します。

補足 ● 用紙トレイにセットできる用紙は、各用紙トレイによって異なります。詳細は、「2.1 用紙について」を参照してください。

2.2.1 用紙トレイ1、2、3、4に用紙をセットする

用紙トレイ1、2、3、4に用紙を補給する方法を説明します。印刷中に用紙がなくなると、ディスプレイに「用紙トレイ×に用紙がありません。（×はトレイ番号）××サイズの用紙を補給してください（××は用紙サイズ）」というメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると、自動的に印刷が再開されます。

補足 ● 印刷中でも、使用していない用紙トレイには用紙を補給できます。ここでは、なくなった用紙と同じ向き、サイズの用紙をセットする方法について説明します。用紙サイズや向きを変更する場合は、「2.3 用紙トレイの用紙サイズを変更する」を参照してください。

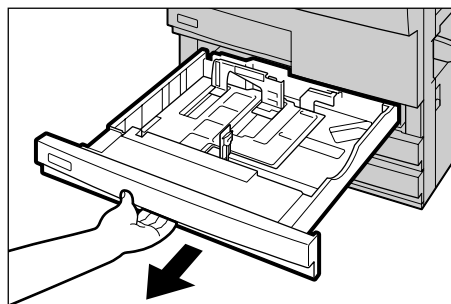
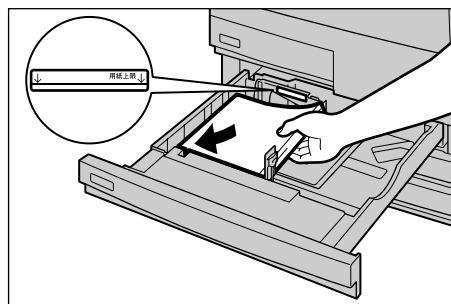
注記

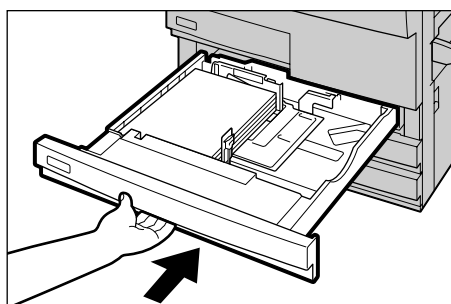
●用紙上限線を越える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因となります。

操作手順

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

⚠注意

用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

2 印刷する面を下にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

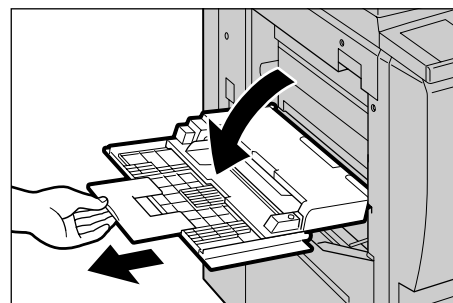
正しく用紙がセットがされると、自動的に印刷が再開されます。

2.2.2　用紙トレイ5（手差し）に用紙をセットする

用紙トレイ1、2、3、4にセットできないOHPフィルム、官製はがき、厚紙やその他の特殊用紙、定型外サイズの用紙などに印刷したいときは、用紙トレイ5（手差し）を使用します。
用紙トレイ5（手差し）で印刷する場合は、必ずプリンタードライバーで用紙トレイ5（手差し）を指定し、正しい用紙サイズと用紙紙質を選択してください。また、SRA3（320×450mm/12.6×17.7インチ）、または12×18インチサイズの用紙に印刷する場合は、用紙ガイドをそれぞれの位置に移動する必要があります。ここでは、用紙トレイ5（手差し）への用紙セットのしかたと、用紙ガイドの移動のしかたについて説明します。

■用紙トレイ5（手差し）に用紙をセットする

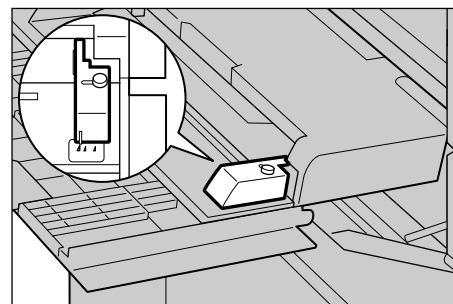
操作手順

1　用紙トレイ5（手差し）を開きます。

必要に応じて、延長トレイを引き出します。延長トレイは、2段階に引き出せます。

2　用紙トレイ5（手差し）の手前にある用紙ガイドの位置を確認します。

通常は、用紙ガイドを右図の位置にします。

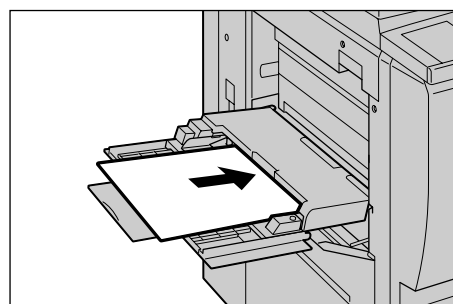
補 足

- 用紙ガイドが「12 ”/305mm」または「12.6 ”/320mm」の位置にある場合は、右図の位置に戻してください。
  また、SRA3（320×450mm/12.6×17.7インチ）、12×18インチの用紙に印刷する場合は、用紙ガイドを移動してください。
  用紙ガイドの移動のしかたについては、次項の「■用紙ガイドの位置を移動する」を参照してください。

3　印刷する面を上に向けて、用紙を用紙ガイドに沿って軽く奥に突き当たるまで差し込みます。

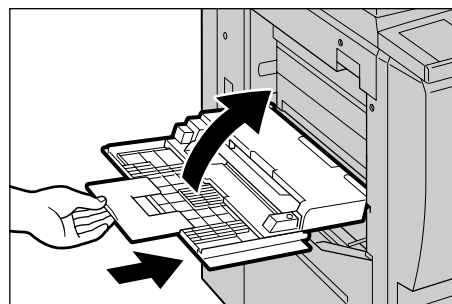
注 記

- 用紙上限線を越える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因となります。

補 足

- 異なるサイズを混在してセットすることはできません。
- 電飾フィルム（A3のOHPフィルム）は、1枚ずつセットして印刷してください。
- 高温多湿の環境では、コート紙、アートフィルムは、1枚ずつセットして印刷してください。

4　用紙サイズ合わせガイドを、セットした用紙に軽く当てます。

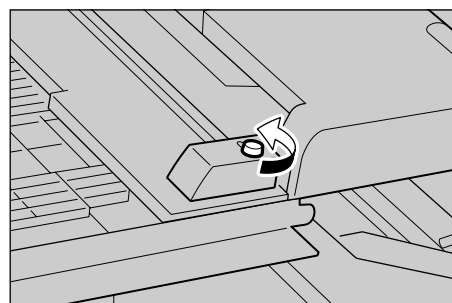
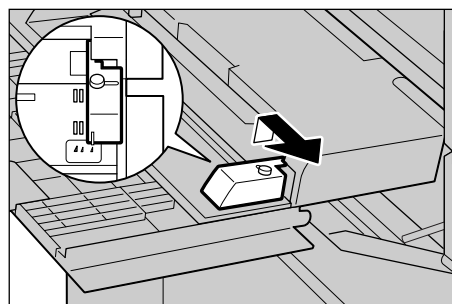
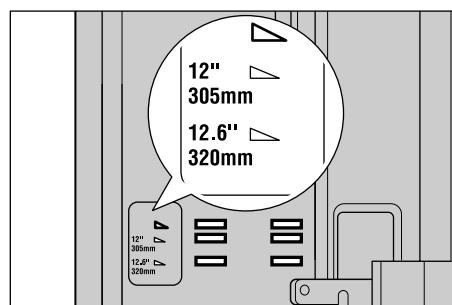
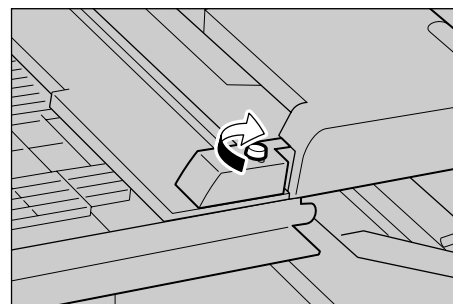
5 **印刷終了後、用紙トレイ5（手差し）を元に戻します。**

用紙トレイ5（手差し）に用紙が残っている場合は、用紙を取り除いてください。延長トレイを引き出した場合は、延長トレイを元に戻してから、手差しトレイを閉めてください。

■用紙ガイドの位置を移動する

SRA3（320×450mm/12.6×17.7インチ）、または12×18インチの用紙に印刷する場合は、用紙をセットする前に、用紙トレイ5（手差し）の手前にある用紙ガイドを移動します。印刷が終了したら、必ず用紙ガイドは元の位置に戻してください。

操作手順

1 **用紙トレイ5（手差し）を開きます。**

2 **用紙ガイドの右手前のネジをゆるめます。**

3 **用紙ガイドを持ち上げて位置を移動します。**

用紙ガイドは、奥が通常の位置で、「12 ”/305mm」が12×18インチ「12.6 ”/320mm」がSRA3（320×450mm/12.6×17.7インチ）サイズです。

4 **ネジをしめます。**

5 **印刷終了後、操作手順2～4を行って、用紙ガイドを通常の位置に戻します。**

2.3 用紙トレイの用紙サイズを変更する

用紙トレイ2、3、4は、セットする用紙のサイズや向きを変更できます。用紙トレイ1はA4▯に固定されていて、サイズや向きの変更はできません。また、用紙トレイ2、3、4でも、用紙サイズは定型サイズのみです。定型外サイズの用紙に印刷したい場合は、用紙トレイ5（手差し）にセットしてください。

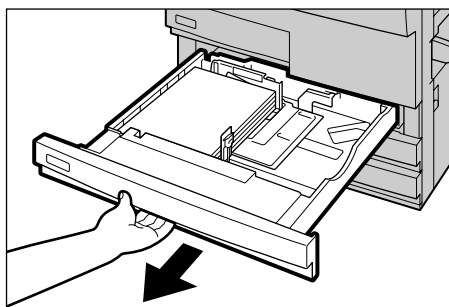
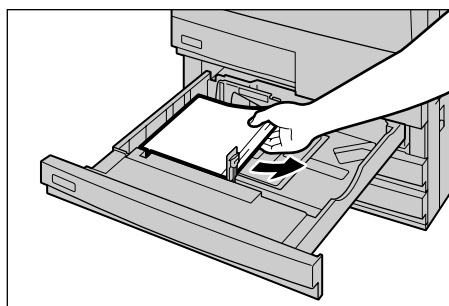
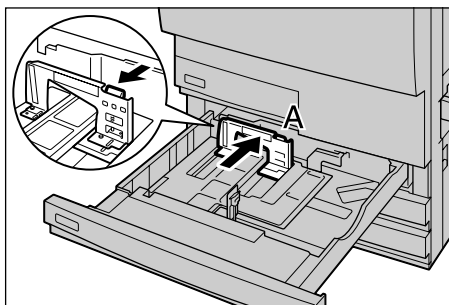
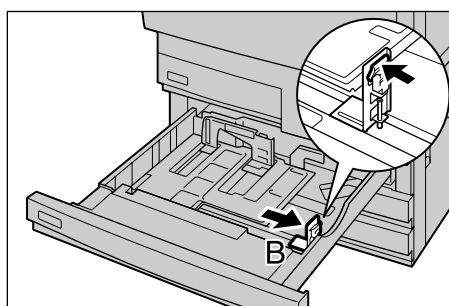
補 足

- 用紙トレイにセットできる用紙は、各用紙トレイによって異なります。詳細については、「2.1 用紙について」を参照してください。
- 用紙サイズと同時に用紙の種類も変更する場合は、用紙紙質の設定を変更してください。用紙紙質の変更は、機械管理者が設定します。設定のしかたについては、「3.2 機械管理者画面の概要」を参照してください。
- 用紙トレイにセットできる用紙サイズは、カストマーエンジニアの設定によって、変更できます。用紙トレイ1は、A5、B5▯、8.5×11インチ▯のいずれかに、用紙トレイ2、3、4は、12×18インチ、または定型外サイズ（短辺182～297mm、長辺200～432mm）がセットできます。

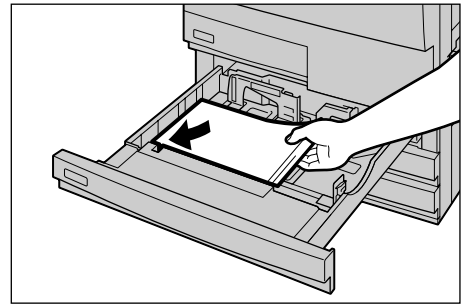
操作手順

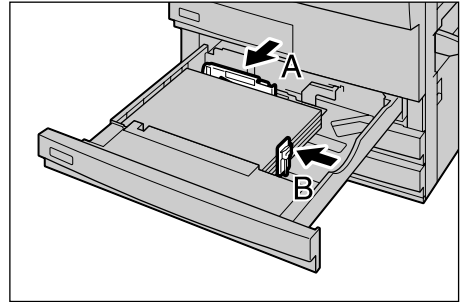
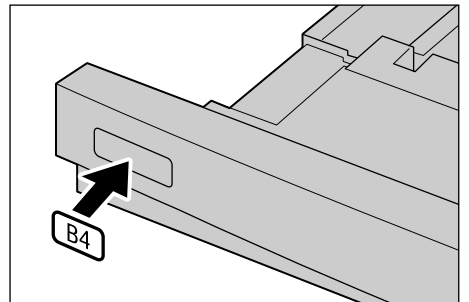
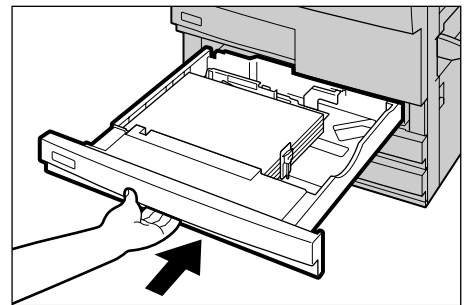
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

⚠注意

用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

3 用紙ガイドレバーAをつまみながら、ガイドを奥まで移動します。

4 用紙ガイドレバーBをつまみながら、ガイドを右側へ移動します。

注記

- 種類の異なる用紙を一緒にセットしないでください。紙づまりの原因となります。
- 用紙上限線を越える量の用紙をセットしないでください。

5 **印刷する面を下にして、用紙の先端を左手前にそろえてセットします。**

6 **用紙ガイドレバーAとBを、それぞれつまみながら移動し、用紙に軽く当てるように合わせます。**

用紙ガイドを正しい用紙サイズの位置に合わせると、カチッと音がします。

7 **用紙サイズのラベルを貼ります。**

補足

- サイズ変更前の用紙と種類（紙質）が異なる場合は、用紙紙質の設定を変更してください。用紙紙質は、機械管理者が設定します。設定のしかたについては、「3.2 機械管理者画面の概要」を参照してください。

8 **奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。**

機械管理者画面の設定（仕様設定）

3
章

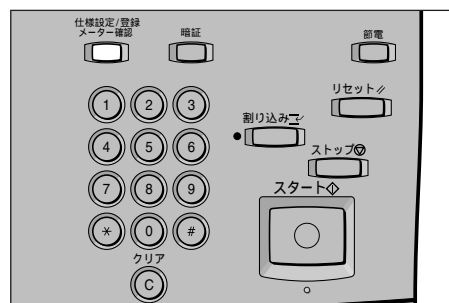
3.1 機械管理者画面の表示と終了

機械管理者画面では、機械の設定状態を必要に応じて変更できます。
この機械管理者画面は、機械管理者が暗証番号を入力して操作します。ここでは、機械管理者画面の表示のしかたと終了のしかたについて説明します。

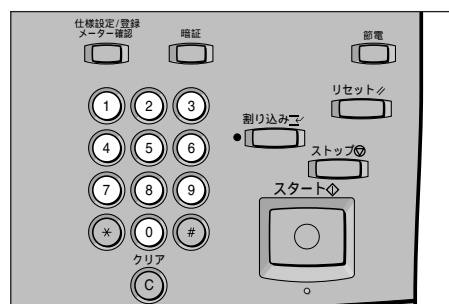
補足
- ディスプレイにエラーメッセージが表示されているときは、機械管理者画面に入ることはできません。「プリントできます。」、または「お待ちください。」が表示されていることを確認してください。
- 機械管理者用の暗証番号は、工場出荷時には「11111」が設定されています。この暗証番号は変更できます。管理上の安全のため、なるべく早い時期に暗証番号を変更するようにしてください。暗証番号の変更のしかたについては、「3.4 機械管理者の暗証番号を変更する」を参照してください。

■機械管理者画面を表示する

操作手順

1 仕様設定/登録メーター確認 ボタンを押します。

2 機械管理者画面 を選択します。

暗証番号入力画面が表示されます。

3 暗証番号を 数字 ボタンで入力します。

補足
- 工場出荷時は、暗証番号に「11111」が設定されています。

補 足

●入力した暗証番号は「*」で表示されます。入力を間違えたときは、Cボタンを押して、再入力してください。
●操作を中止するときは、閉じるを選択してください。設定項目画面に戻ります。

4 設定 を選択します。

機械管理者画面が表示されます。

補 足

●設定項目の 点検/修理依頼 は、EPシステム使用時に表示されます。EPシステムについては、「付録B EPシステムについて」を参照してください。

■機械管理者画面を終了する

操作手順

1 設定項目画面で 作業終了 を選択します。

3.2 機械管理者画面の概要

ここでは、機械管理者画面で設定や変更ができる機能を画面で紹介し、各項目の概要や設定できる範囲、工場出荷の設定値を説明します。

機械管理者画面です。
設定項目　作業終了
用紙トレイの設定
音の設定
タイマー設定
管理者暗証番号の設定
その他の設定
点検/修理依頼

補足
- 点検/修理依頼 は、EPシステム使用時に表示されます。EPシステムについては、「付録B EPシステムについて」を参照してください。
- 点検/修理依頼 の操作については、「4.3 点検/修理を依頼する」を参照してください。

■用紙トレイの設定

用紙トレイの設定では、以下の設定ができます。

●用紙紙質の設定

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>概要</th><th>設定できる値</th></tr>
<tr><td>トレイ1</td><td rowspan="4">用紙トレイ1～4にセットする用紙の紙質を設定します。適正なコピーをとるために、用紙に合った紙質を設定してください。用紙と異なる紙質に設定すると紙づまりや故障の原因になることがあります。</td><td>普通紙* 64～105未満 g/m²</td></tr>
<tr><td>トレイ2</td><td rowspan="3">普通紙* 64～105未満 g/m²
厚紙1　105～128 g/m²</td></tr>
<tr><td>トレイ3</td></tr>
<tr><td>トレイ4</td></tr>
</table>

*マークは、工場出荷時の初期値を示します。

■音の設定

操作時に鳴る音や、機械の異常などを知らせるブザー音の音量を設定します。

設定項目	概要	設定できる値
正常入力音	ディスプレイに表示されるボタンを正しく選択したときに鳴る音を設定します。	切．小．中*．大
異常入力音	誤った操作をしたときに鳴る音を設定します。	切．小．中*．大
ハードボタン入力音	操作パネルのボタンを押したときに鳴る音を設定します。	切*．鳴らす
警告音	紙づまりなどの異常が発生したときに鳴る音を設定します。	切．小．中*．大

*マークは、工場出荷時の初期値を示します。

■タイマー設定

自動節電に入るまでの時間と機械管理者モードを自動解除する時間の設定をします。

設定項目	概要	設定できる値
節電スリープモード	印刷終了後、または最後に操作してから、自動的に節電スリープモードに入るまでの時間を設定します。 参照：「1.2.2　節電について」	15～240分(1分きざみ) 60分*
管理者モード自動解除	最後に機械管理者画面の操作をしてから、自動的に機械管理者モードを解除し、初期画面に戻るまでの時間を設定します。	10～60分(1分きざみ) 10分* 禁止

*マークは、工場出荷時の初期値を示します。

■管理者暗証番号の設定

機械管理者画面を表示するための暗証番号を変更できます。暗証番号は、4〜12桁の範囲で設定します。工場出荷時は、「11111」が設定されています。

参照　「3.4 機械管理者の暗証番号を変更する」

■その他の設定

その他の設定 で設定できる項目は、接続しているプリント機能（外部機器）によって異なります。詳しくは、プリント機能（外部機器）に付属の説明書をごらんください。

3.3 設定のしかた

ここでは、機械管理者画面の基本的な操作手順を 音の設定 を例に説明します。
その他の項目の設定も本節の手順に従ってください。ただし、管理者暗証番号の設定 、点検/修理依頼 の項目は、以下の節を参照してください。

参照　管理者暗証番号の設定 については、「3.4 機械管理者の暗証番号を変更する」
点検/修理依頼 については、「4.3 点検/修理を依頼する」

操作手順

参照
「3.1 機械管理者画面の表示と終了」

補足
●設定項目の 点検/修理依頼 は、EPシステム使用時に表示されます。EPシステムについては、「付録B EPシステムについて」を参照してください。

1 機械管理者画面を表示します。

2 音の設定 を選択します。

音の設定画面が表示されます。

補足
● 機能名に直接指で触れても選択できます。

3 変更する項目を ▲ ▼ で選択します 。

4 確認/変更 を選択します。

選択した機能の初期値設定画面が表示されます。

5 変更する項目を選択し、決定 を押します。

音の設定画面に戻り、現在の設定値の表示が変更されます。

6 他の設定項目を変更する場合は、操作手順3〜5を繰り返します。

7 設定が終了したら、閉じる を選択します。

設定項目画面に戻ります。

8 機械管理者画面を終了します。

参照
「3.1 機械管理者画面の表示と終了」

3.4 機械管理者の暗証番号を変更する

機械管理者画面に入るための暗証番号を変更できます。暗証番号として設定できるのは、4～12桁までの数字です。

参照

「3.1 機械管理者画面の表示と終了」

補足

●設定項目の 点検/修理依頼 は、EPシステム使用時に表示されます。EPシステムについては、「付録B EPシステムについて」を参照してください。

補足

●入力した暗証番号は、「*」で表示されます。入力を間違えたときは、C ボタン、または やり直し を押して、再入力してください。

操作手順

1 機械管理者画面を表示します。

2 管理者暗証番号の設定 を選択します。

機械管理者暗証番号の設定画面が表示されます。

3 新しく設定する暗証番号を 数字 ボタンで入力します。

4 設定 を選択します。

5 **もう一度、操作手順3と同じ暗証番号を 数字 ボタンで入力します。**

6 **設定 を選択します。**

操作手順3と5で同じ数字が入力されないと設定できません。入力を間違えたときは、やり直し を選択し、操作手順3からやり直してください。

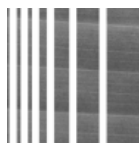
7 **閉じる を選択します。**

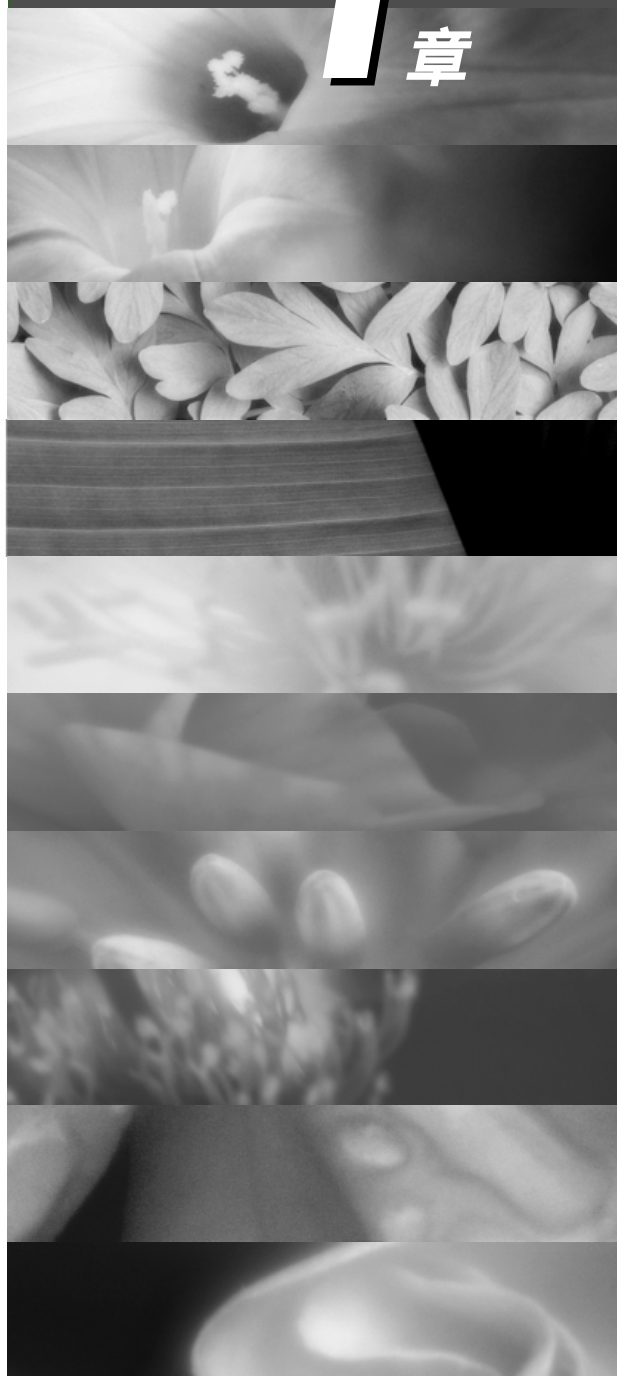
設定項目画面に戻ります。

8 **機械管理者画面を終了します。**

参 照

「3.1 機械管理者画面の表示と終了」

機械管理者画面の設定 3

トラブルと思ったら

4
章

4.1 トラブルと思ったら

ここでは、本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。
紙づまりや本体内部のトラブルが発生した場合は、画面にメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。なお、対処をしても正常に動作しないときは、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。

4.1.1 エラーメッセージが表示されたとき

エラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージに従って対処してください。なお、「紙づまり」と表示された場合は、「4.2 用紙がつまった場合」を参照してください。

4.1.2 その他のトラブルが発生したとき

症状	チェックポイント	処置方法
電源が入らない	電源プラグがコンセントに入っていますか。	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
	機械側のプラグが外れていませんか。	機械側のプラグを確実に差し込んでください。
	電源スイッチが「｜」（入）になっていますか。	電源スイッチを「｜」（入）にしてください。
	ブレーカースイッチが「｜」（入）になっていますか。	ブレーカースイッチを「｜」（入）にしてください。
ディスプレイが暗い	輝度調節ダイヤルの調節が暗すぎませんか。	輝度調整ダイヤルで、ディスプレイの明るさを調整してください。 参照：「1.1 各部の名称と働き」
「外部接続機器2の電源を入れてください。」が表示されている	外部接続機器のインターフェイスケーブルが接続されてますか。または電源が入っていますか。	外部接続機器のインターフェイスケーブルを確実に接続してください。または電源を入れてください。
部分的に印刷されない	用紙が湿気を含んでいませんか。	用紙が湿気を含んでいると、部分的に印刷されなかったり、不鮮明になります。未開封の用紙と交換してください。
	折りめやシワの入った用紙がトレイに入っていませんか。	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。
印刷がずれたり、曲がっている	用紙トレイが確実にセットされていますか。	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 参照：「2.2 用紙をセットする」
	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか。 用紙トレイ5（手差し）の用紙ガイドが用紙にふれるようにセットされていますか。	用紙を正しくセットしてください。 参照：「2.2 用紙をセットする」

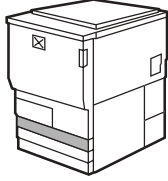
症状	チェックポイント	処置方法
紙づまり、紙シワがたびたび発生する	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか。	用紙を正しくセットしてください。 参照：「2章 用紙のセット」
	用紙トレイが正しくセットされていますか。	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで正しくセットしてください。 参照：「2章 用紙のセット」
	折りめやシワの入った用紙が用紙トレイにセットされていませんか。	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。 参照：「2章 用紙のセット」
	用紙がカールしていませんか。	用紙トレイ内の用紙を裏返すか、未開封の用紙と交換してください。 参照：「2章 用紙のセット」
	機械の内部につまった用紙や紙片が残っていたり、異物が入っていませんか。	機械を開けるか、用紙トレイを引き出して、紙片や異物を取り除いてください。 参照：「2章 用紙のセット」
	用紙が湿気を含んでいませんか。	未開封の用紙と交換してください。 参照：「2章 用紙のセット」
	使用基準外の用紙がトレイに入っていませんか。	使用基準内の用紙と交換してください。 参照：「2章 用紙のセット」
	用紙トレイ内の用紙上限線を越えて、用紙をセットしていませんか。	用紙トレイ内の用紙上限線を越えないように、用紙をセットしてください。 参照：「2章 用紙のセット」
紙づまりが頻繁に発生する	用紙トレイ1～4の場合、ガイドのセット位置がずれていませんか。	ガイドが正しくセットされていることと、ガイド位置と同じサイズの用紙がセットされていることを確認してください。 参照：「2章 用紙のセット」
	用紙トレイ5（手差し）の場合、手前と奥のガイドのセット位置がずれていませんか。	12x18インチ、またはSRA3サイズの用紙に印刷するとき以外は、手前のガイドを通常の位置に合わせて、奥のガイドを用紙サイズに合わせてください。 参照：「2.2.2 用紙トレイ5（手差し）に用紙をセットする」
カラー印刷されない	プリンタードライバーで白黒を指定していませんか。	カラーを指定して、印刷してください。
	ディスプレイに、トナーカートリッジ交換を促すメッセージが表示されていませんか。	表示されている色のトナーカートリッジを交換してください。 参照：「5.3 トナーカートリッジを交換する」

4.2 用紙がつまった場合

用紙がつまると、機械が停止し、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、つまっている用紙を取り除いてください。
用紙は破れないように、静かに取り除いてください。取り除く途中で用紙が破れたときも紙片を機械の中に残さないで、すべて取り除いてください。処置を終了しても、紙づまりのメッセージが表示されるときは、他の箇所でも用紙がつまっています。メッセージに従って処置してください。
紙づまりの処置が終了すると、自動的に用紙がつまる前の状態から印刷が再開されます。

⚠注意　つまった用紙を取り除くときは、機械内部に紙片が残らないようにすべて取り除いてください。紙片が残ったままになっていると火災の原因となることがあります。
なお、紙片が取り除けない場合および定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。けがややけどの原因となるおそれがあります。直ちに電源を切り、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。

注記
- 紙づまりが発生したとき、紙づまり位置を確認せずに転写ユニットや、用紙トレイ1～4を引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、紙づまりの位置を確認してからつまっている位置の処置をしてください。
- 紙片がプリンター内に残っていると、紙づまりの表示は消えません。
- 紙づまりの処置をするときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。
- プリンター内部の部品には触れないでください。印字不良の原因になります。

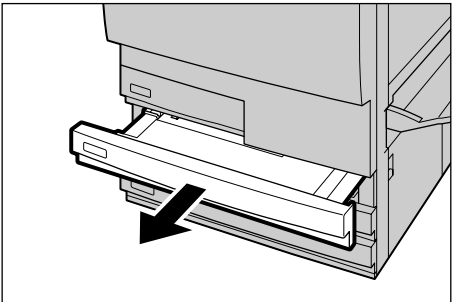
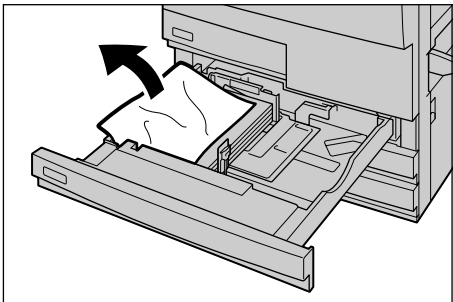
ここでは、以下の箇所で発生した紙づまりの処置のしかたを説明しています。
・用紙トレイ部での紙づまり
・本体の左側面下部での紙づまり
・本体の排出口/右側面下部での紙づまり
・本体の内部での紙づまり

4.2.1　用紙トレイ部での紙づまり

ここでは、用紙トレイ部で発生した紙づまりの処置のしかたを説明します。

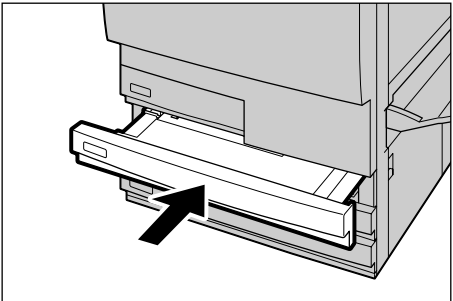
■用紙トレイ1、2、3、4での紙づまり

用紙トレイ1、2、3、4で紙づまりが発生すると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。操作手順に従って、つまっている用紙を取り除きます。

操作手順

1 **ディスプレイに表示されている紙づまりの用紙トレイを引き出します。**

2 **つまっている用紙を取り除きます。**

3 **用紙が破れた場合、紙片が残っていないか確認します。**

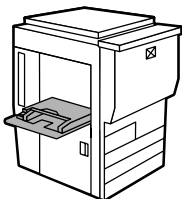
4 **用紙トレイを静かに押し込みます。**

用紙が残っていると紙づまりのメッセージが表示されます。紙の取り残しや、他の箇所での紙づまりがないか確認し、処置してください。

補 足

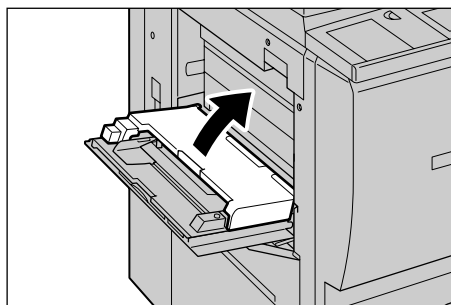
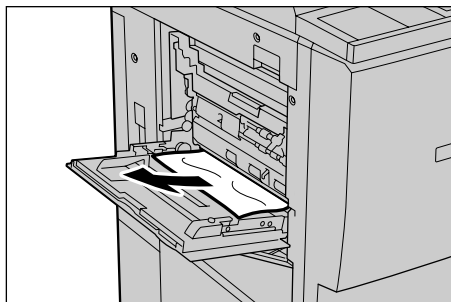
● 用紙トレイを完全に閉じないとメッセージが表示され、機械が作動しません。また、他の箇所に用紙がつまっている場合は、別のメッセージが表示されます。

■用紙トレイ5（手差し）での紙づまり

用紙トレイ5（手差し）で紙づまりが発生すると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。操作手順に従って、つまっている用紙を取り除きます。

補 足　● OHPフィルムは、専用のOHPフィルムを使用してください。専用以外のOHPフィルムを使用すると、故障や紙づまりの原因となります。

操作手順

1 **用紙トレイ5（手差し）の上面カバーの取っ手を握りながら、開きます。**

上面カバーが本体側面の磁石に吸着します。

2 **用紙トレイ5（手差し）から、送りかけのつまった用紙を取り除きます。**

3 **用紙が破れた場合、紙片が残っていないか確認します。**

4 **用紙トレイ5（手差し）の上面カバーを閉じます。**

補足

●用紙トレイ5（手差し）の上面カバーを閉じないとメッセージが表示され、機械が作動しません。また、他の箇所に用紙がつまっている場合は、別のメッセージが表示されます。

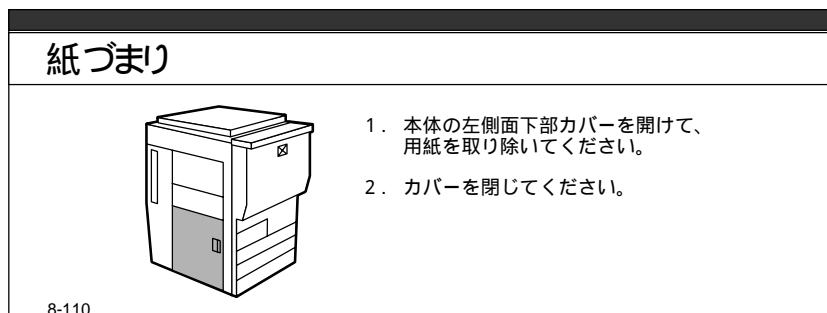
5 **用紙トレイ5（手差し）に用紙を正しくそろえてセットします。**

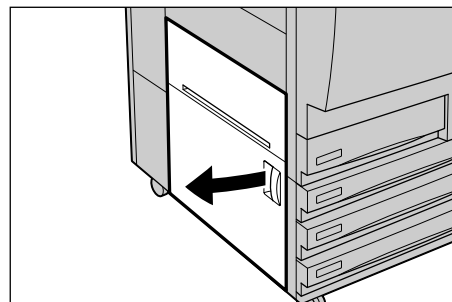
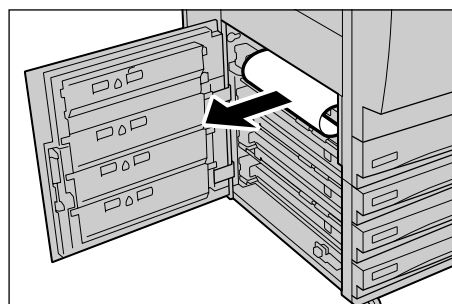
用紙が残っていると、紙づまりのメッセージが表示されます。紙の取り残しや、他の場所での紙づまりがないか確認し、処置してください。

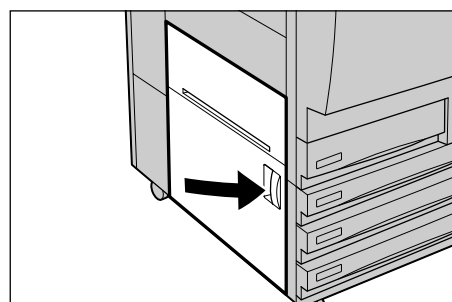
補足

●用紙を複数枚セットしている場合は、いったんすべての用紙を取り出して、正しくセットし直してください。

4.2.2　本体の左側面下部での紙づまり

本体の左側面下部で紙づまりが発生すると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。操作手順に従って、つまっている用紙を取り除きます。

操作手順

1 本体の左側面下部カバーの取っ手を握りながら、開きます。

2 つまっている用紙を取り除きます。

3 用紙が破れた場合、紙片が残っていないか確認します。

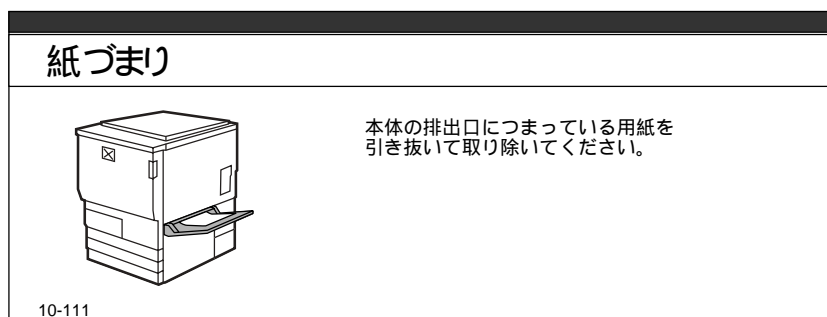
4 左側面下部カバーを閉じます。

補足

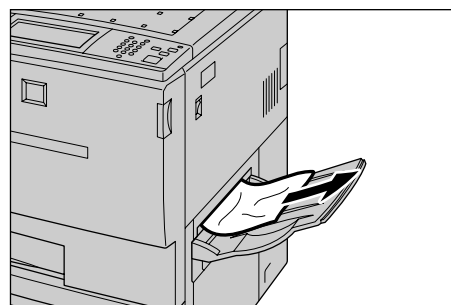
● 左側面下部カバーを完全に閉じないとメッセージが表示され、機械が作動しません。また、他の箇所に用紙がつまっている場合は、別のメッセージが表示されます。

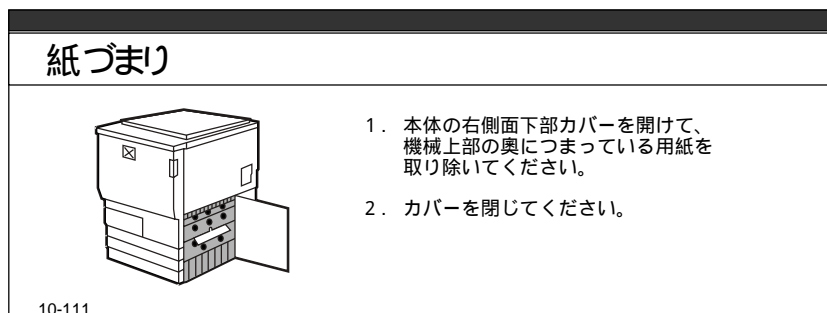
4.2.3　本体の排出口/右側面下部での紙づまり

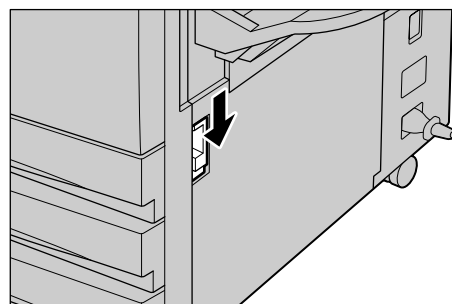
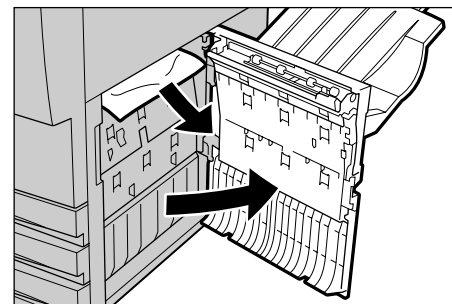
ここでは、本体の排出口、または右側面下部で発生した紙づまりの処置のしかたを説明します。

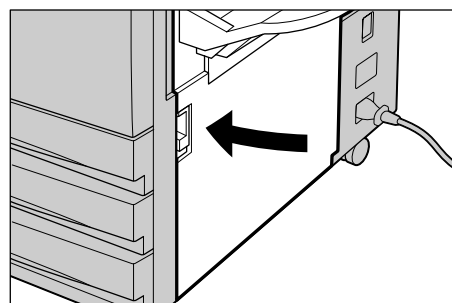
■本体の排出口での紙づまり

本体の排出口で紙づまりが発生すると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。以下の手順で、つまっている用紙を取り除きます。

操作手順

1　**本体の排出口につまっている用紙を引き抜きます。**

■本体の右側面下部での紙づまり

右側面下部で紙づまりが発生すると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。以下の手順で、つまっている用紙を取り除きます。

操作手順

1 本体の右側面下部の下向き矢印ボタンを押し、右側面下部カバーを開けます。

2 右側面下部カバーを開き、つまっている用紙を取り除きます。

3 用紙が破れた場合、紙片が残っていないか確認します。

4 右側面下部カバーを閉じます。

補足

●右側面下部カバーを完全に閉じないとメッセージが表示され、機械が作動しません。また、他の箇所に用紙がつまっている場合は、別のメッセージが表示されます。

4.2.4　本体の内部での紙づまり

■本体の内部での紙づまり

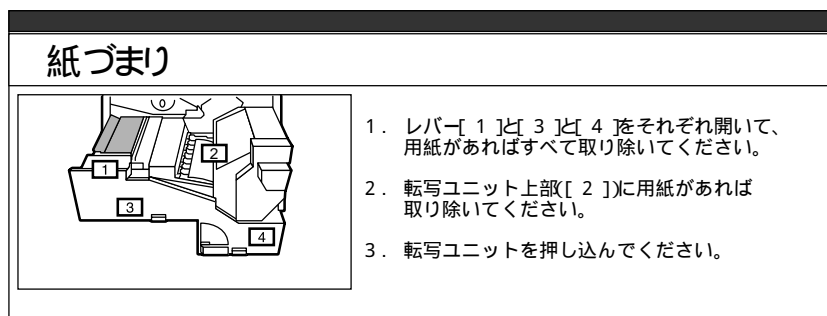
本体内部の転写ユニット部分で紙づまりが発生すると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。以下の手順で、つまっている用紙を取り除きます。

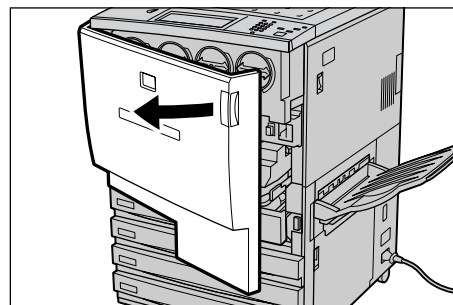
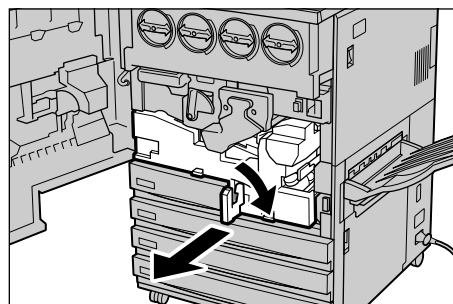
⚠注意　**「高温注意」および「注意」を促すラベルが貼ってある箇所（定着部やその周辺）には絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。**

補足　● 下の画面は本体内部「1」「2」「3」「4」で用紙づまりが発生した場合のエラーメッセージです。用紙がつまっている箇所によって、表示されるエラーメッセージが異なります。

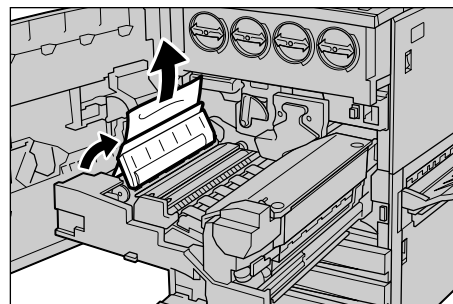
1．レバー[1]と[3]と[4]をそれぞれ開いて、
　用紙があればすべて取り除いてください。

2．転写ユニット上部([2])に用紙があれば
　取り除いてください。

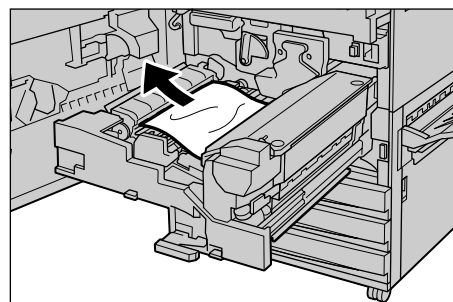
3．転写ユニットを押し込んでください。

操作手順

1　**フロントカバーを開けます。**

2　**転写ユニット中央にある緑色のレバーを、右方向に水平になるまで回して、手前に止まるところまで転写ユニットを引き出します。**

3 レバー「1」を上方向に持ち上げて開きながら、つまっている用紙を取り除きます。

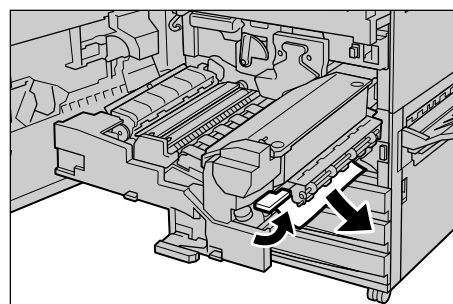
⚠注意

「高温注意」および「注意」を促すラベルが貼ってある箇所（定着部やその周辺）には絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。

4 転写ユニット上部、または定着部入口に用紙がつまっている場合は、用紙を左方向に取り除きます。

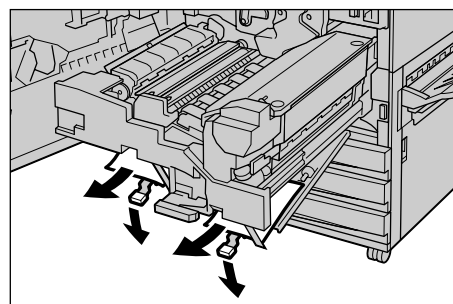
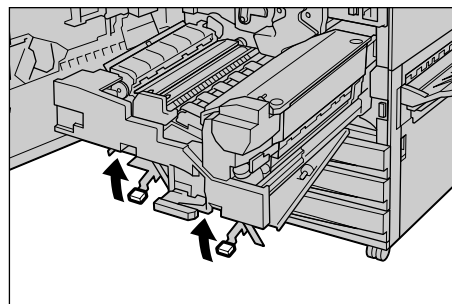
⚠注意

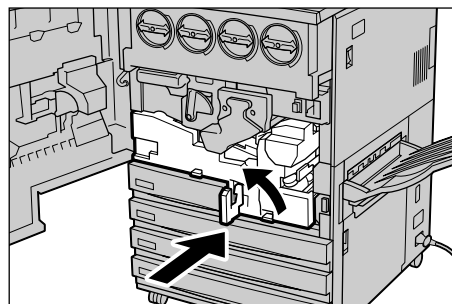
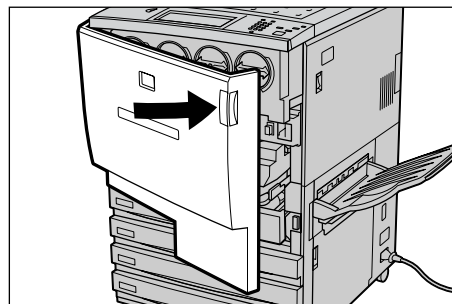
「高温注意」および「注意」を促すラベルが貼ってある箇所（定着部やその周辺）には絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。

5 用紙が取り除けない場合は、定着部右側の緑色の取っ手を右方向に開き、つまっている用紙を取り除きます。

⚠注意

「高温注意」および「注意」を促すラベルが貼ってある箇所（定着部やその周辺）には絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。

6 レバー「3」と「4」を押し下げて開き、つまっている用紙を取り除きます。

⚠注意

「高温注意」および「注意」を促すラベルが貼ってある箇所（定着部やその周辺）には絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。

7 **レバー「3」と「4」を押し上げて閉じます。**

8 **転写ユニットを完全に奥まで押し込み、緑色のレバーを左に回します。**

レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから再度押し込んでください。

9 **フロントカバーを閉じます。**

補 足

●**フロントカバーを完全に閉じないとメッセージが表示され、機械が作動しません。また、他の箇所に用紙がつまっている場合は、別のメッセージが表示されます。**

4.3 点検/修理を依頼する

EPシステム

EPシステムを使用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに以下の手順で操作すると、機械が弊社のテレフォンセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。この点検/修理依頼は、機械管理者が機械管理者画面で操作します。

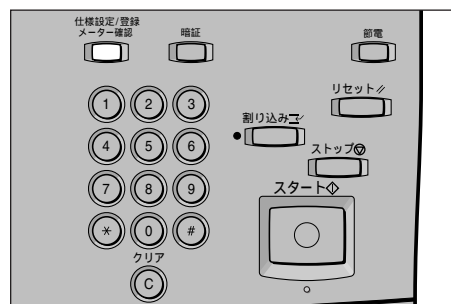
補足 ● EPシステムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照 「付録B EPシステムについて」

補足
- ●暗証番号は、工場出荷時は、「11111」に設定されています。暗証番号については、機械管理者にお尋ねください。
- ●入力した暗証番号は、「*」で表示されます。入力を間違えたときは、Cボタンを押して再入力してください。

操作手順

1 **仕様設定/登録メーター確認 ボタンを押します。**

仕様設定/メーター確認画面が表示されます。

2 **機械管理者画面 を選択します。**

暗証番号入力画面が表示されます。

3 **機械管理者用の暗証番号を 数字 ボタンで入力し、設定 を選択します。**

設定項目画面が表示されます。

4 点検/修理依頼 を選択します。

点検/修理依頼画面が表示されます。

5 点検を依頼する場合は 点検依頼 を、修理を依頼する場合は 修理依頼 を選択します。

ここでは、例として 点検依頼 を選択します。

点検依頼画面が表示されます。

6 確認 を選択します。

電話回線を使い、点検/修理依頼が開始されます。

補 足

- 取り消し を選択すると、点検および修理依頼は取り消され、点検/修理依頼画面に戻ります。

しばらくすると、ディスプレイに以下のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されれば、弊社のテレフォンセンターへの連絡が正常に終了しています。

<連絡できなかった場合>

補 足

●通信回線などの異常がおきた場合、右のメッセージが表示されます。その場合は、弊社のテレフォンセンターに電話でお問い合わせください。

7 **確認 を選択します。**

点検/修理依頼画面に戻ります。

8 **閉じる を選択します。**

設定項目画面に戻ります。

9 **作業終了 を選択します。**

5

章

日常の管理

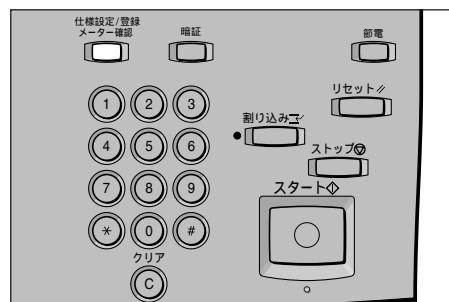
5.1 消耗品について

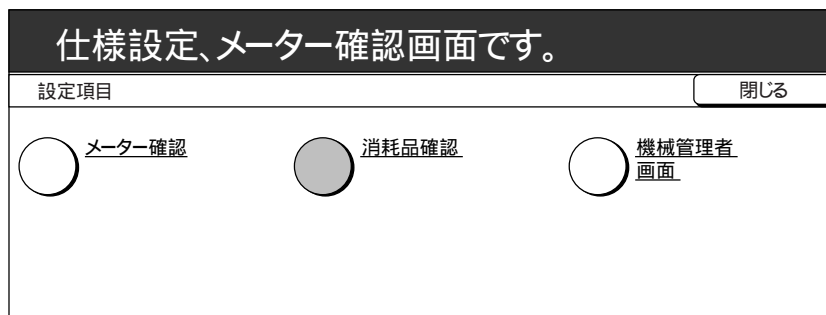
本機では、画面で消耗品の状態を確認することができます。ここでは、消耗品の状態を確認する方法と、消耗品の種類と取り扱いについて説明します。

■消耗品の状態を確認する

消耗品の状態を一覧で確認したい場合は、消耗品確認画面を表示します。各消耗品の状態が、「良好」「まもなく交換」「交換」で表示されます。消耗品確認画面を表示する手順は、以下のとおりです。

操作手順

1 仕様設定/登録メーター確認 ボタンを押します。

設定項目画面が表示されます。

2 消耗品確認 を選択します。

消耗品確認画面が表示されます。

3 確認後、閉じる を選択します。
設定項目画面に戻ります。

4 閉じる を選択します。

■消耗品の種類

本機には、以下のような消耗品が用意されています。本機に適した規格で作られているので、必ず以下の消耗品を使用してください。

消耗品の種類	商品コード	形態
トナーカートリッジ （シアン）	E291	1個/1箱
トナーカートリッジ （マゼンタ）	E292	1個/1箱
トナーカートリッジ （イエロー）	E293	1個/1箱
トナーカートリッジ （ブラック）	E290	1個/1箱
トナー回収ボトル	E453	1個/1箱
現像剤回収ボトル	E454	1個/1箱
オイルカートリッジ	E451	1個/1箱
ドラムカートリッジ	E013	1個/1箱
クリーニングカートリッジ	E452	1個/1箱

■消耗品の取り扱いについて

- 消耗品の箱は、立てた状態で保管しないでください。
- 消耗品は、使用するまでは開封せずに、次のような場所を避けて保管してください。
  高温多湿の場所
  火気のある場所
  直射日光の当たる場所
  ほこりが多い場所
- 消耗品を使用するときは、消耗品の箱や容器に記載された取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。
- 消耗品は予備を置くことをお勧めします。
- 消耗品の発注は、商品コードを確認のうえ、弊社の商品センターまたは販売店にご注文ください。

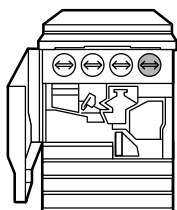
5.2 トナーカートリッジを交換する

本機には、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの4色のトナーカートリッジがセットされています。各カートリッジにはそれぞれの色のトナー（画像形成剤）が入っており、トナーは印刷するたびに少しずつ減少します。
トナーカートリッジの交換時期になると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、表示された色のトナーカートリッジを交換してください。交換せずに印刷し続けると、メッセージ表示後、約1,050枚（ブラックトナーカートリッジのみ約800枚）の印刷で機械は停止し、印刷できなくなります。印刷枚数は原稿によって異なります。

⚠警告　**トナーカートリッジを、絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。**

注記
- 使用済みのトナーカートリッジには処理が必要になるので、弊社または販売店にお渡しください。
- トナーカートリッジを交換するときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

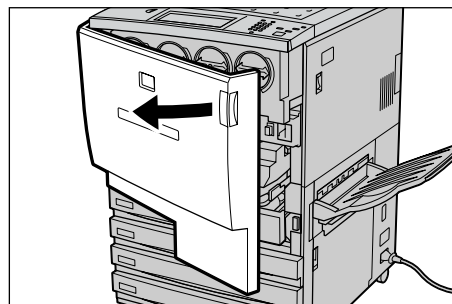
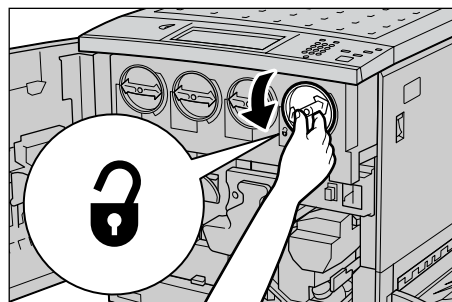
補足
- トナーカートリッジの交換のとき、トナーがこぼれて床面などを汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。

トナーカートリッジ交換

ブラックトナーカートリッジを交換してください。

交換方法はカートリッジの外箱を見てください。

コピーを中止するときは、[C]ボタンを押してください。

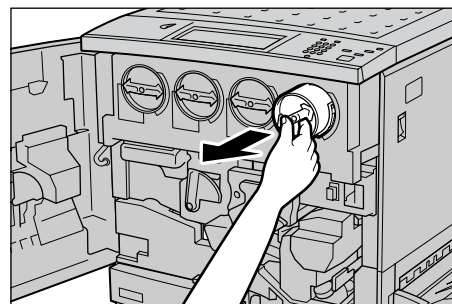
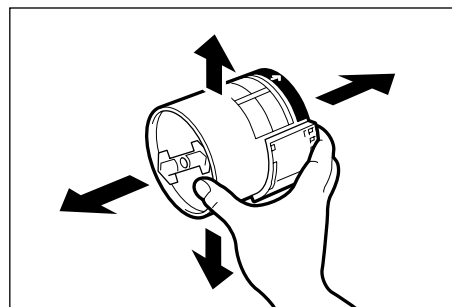
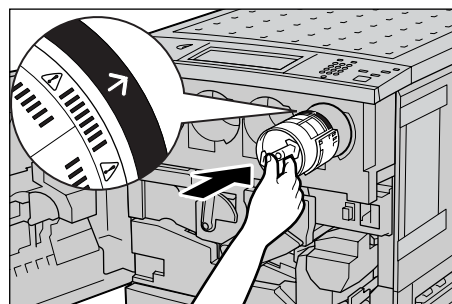
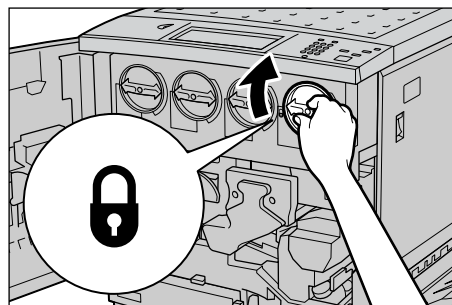
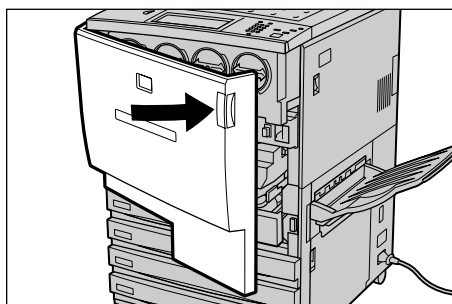
操作手順

1 機械が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。

2 メッセージに表示されている色のトナーカートリッジを、鍵印（開）の位置まで左方向に回します。

注記

- トナーカートリッジはゆっくり引き出してください。トナーが飛び散ることがあります。
- 使用済みのトナーカートリッジは、弊社または販売店にお渡しください。

3 トナーカートリッジを手前に静かに引いて、取り出します。

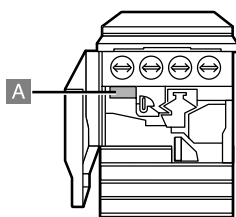
⚠警告

トナーカートリッジを、絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

4 取り出したトナーカートリッジと同じ色の新しいトナーカートリッジを用意し、上下左右によく振ります。

5 トナーカートリッジの矢印（↑）部を上に向けて、奥に突き当たるまで差し込みます。

6 トナーカートリッジを、鍵印（閉）まで右方向に回します。

7 フロントカバーを閉じます。

5.3 トナー回収ボトルAを交換する

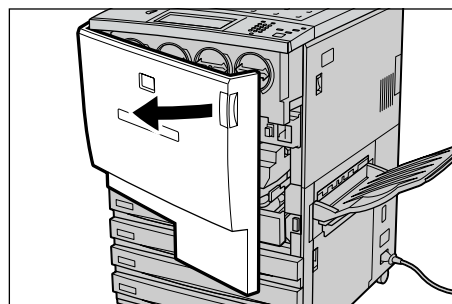
印刷後のドラムに残ったトナーは、かき集められてトナー回収ボトルにたまります。トナー回収ボトルがトナーでいっぱいになると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、新しい回収ボトルと交換してください。交換せずに印刷し続けると、メッセージ表示後、約1,500枚の印刷で機械は停止し、印刷できなくなります。印刷枚数は原稿によって異なります。

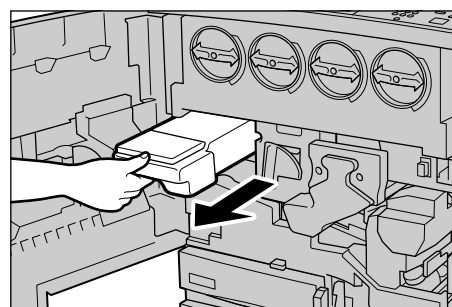
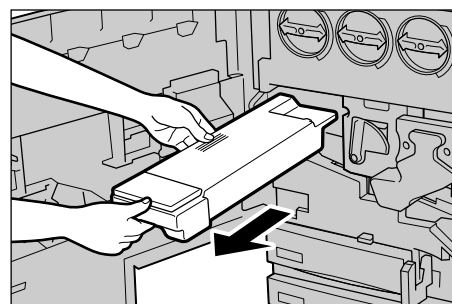
⚠警告　**トナー、または使用済みのトナー回収ボトルを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。**

注記
- 使用済みのトナー回収ボトルには処理が必要になるので、弊社または販売店にお渡しください。
- トナー回収ボトルを交換するときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

補足
- トナー回収ボトルを交換するとき、回収されたトナーがこぼれて床面を汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。

操作手順

1 機械が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。

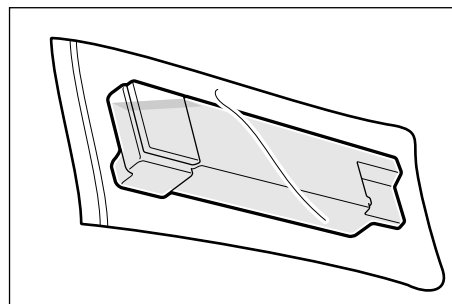
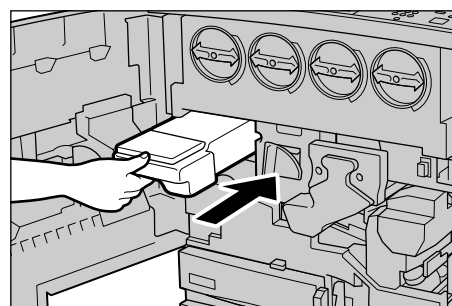
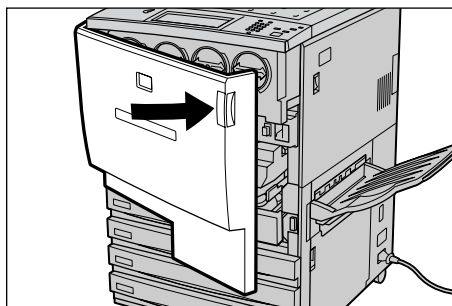
2 **トナー回収ボトルの手前の取っ手をつかみ、トナー回収ボトルの約半分を引き出します。**

注記

●トナー回収ボトルは奥行が長く、回収されたトナーが入っているので重くなります。両手で支えて取り出してください。

3 **トナー回収ボトルの中央部を右図のように支えて、両手でトナー回収ボトルを取り出します。**

4 **使用済みのトナー回収ボトルは、専用のポリ袋に入れます。**

注記

●使用済みのトナー回収ボトルは、弊社または販売店にお渡しください。

⚠警告

トナー、または使用済みのトナー回収ボトルを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

5 **新しいトナー回収ボトルを用意し、奥に突き当たるまで差し込みます。**

6 **フロントカバーを閉じます。**

5.4 現像剤回収ボトルCを交換する

使用済みの現像剤は、現像剤回収ボトルに回収されます。現像剤回収ボトルの交換時期になると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、新しい回収ボトルと交換してください。交換せずに印刷し続けると、メッセージ表示後、約1,500枚の印刷で機械は停止し、印刷できなくなります。印刷枚数は原稿によって異なります。

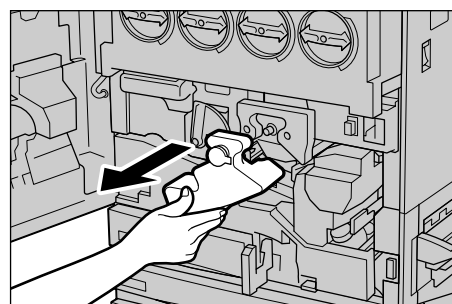
⚠警告　現像剤、または使用済みの現像剤回収ボトルを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

注記
- 使用済みの現像剤回収ボトルは重くなります。取り出すときは、落としたりこぼしたりしないように注意してください。また、あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- 使用済みの現像剤回収ボトルには処理が必要になるので、弊社または販売店にお渡しください。
- 現像剤回収ボトルを交換するときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

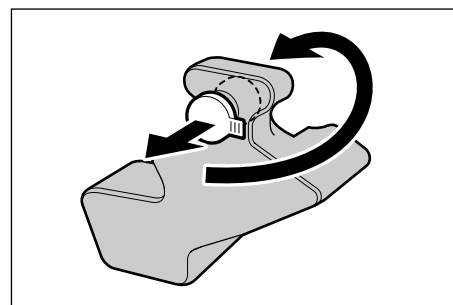
操作手順

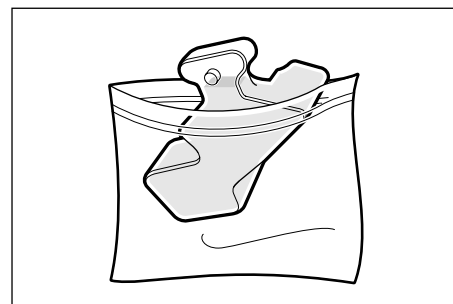
1 機械が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。

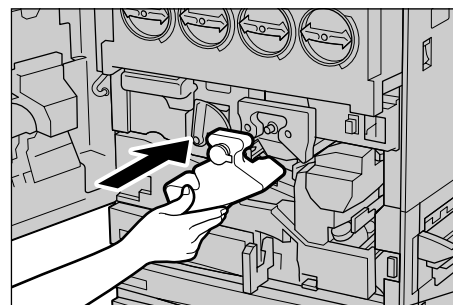
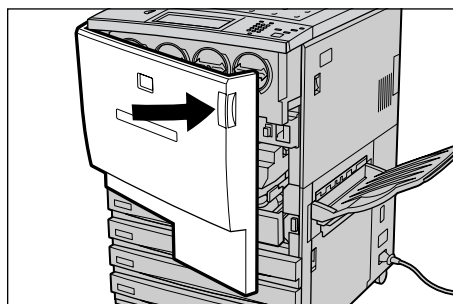
2 現像剤回収ボトルを引き出します。

注記
- 使用済みの現像剤回収ボトルは重くなります。取り出すときは、落としたりこぼしたりしないように注意してください。

3 **取り出した現像剤回収ボトルの裏側の穴を、手前に付いているオレンジ色のキャップでふさぎます。**

注記

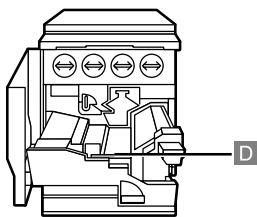
●使用済みの現像剤回収ボトルは、弊社または販売店にお渡しください。

4 **使用済みの現像剤回収ボトルは、専用のポリ袋に入れます。**

⚠警告

現像剤、または使用済みの現像剤回収ボトルを絶対に火中に投じないでください。粉じん爆発により、やけどのおそれがあります。

5 **新しい現像剤回収ボトルを用意し、「カチッ」と音がするまで機械に押し込みます。**

6 **フロントカバーを閉じます。**

5.5 オイルカートリッジDを交換する

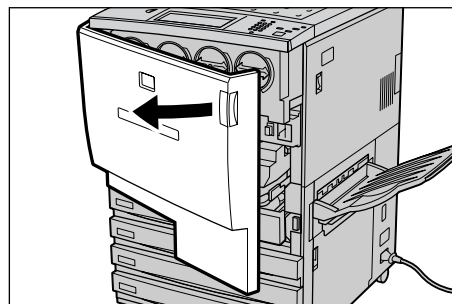
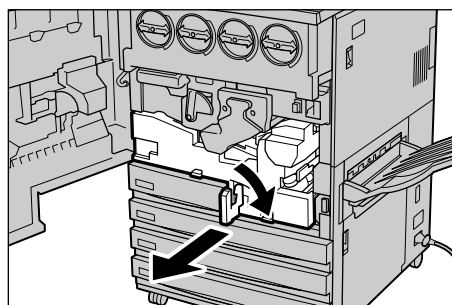
オイルカートリッジの交換時期になると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、新しいオイルカートリッジと交換してください。交換せずに印刷し続けると、メッセージ表示後、約1,500枚の印刷で機械は停止し、印刷できなくなります。印刷枚数は原稿によって異なります。

⚠注意　「高温注意」を促すラベルが貼ってある周辺（定着部やその周辺）には、絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。

注記
- 使用済みオイルカートリッジを抜き取るとき、オイルがたれることがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- 使用済みのオイルカートリッジには処理が必要になるので、弊社または販売店にお渡しください。
- オイルカートリッジは、消防法「第四類第四石油類」に該当します。
- オイルカートリッジを交換するときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

オイルカートリッジ[D]を交換してください。

交換方法はカートリッジの外箱を見てください。

操作手順

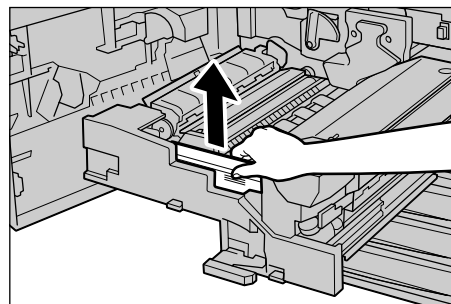
1 機械が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。

2 転写ユニット中央にある緑色のレバーを、右方向に水平になるまで回してから、転写ユニットを手前に引き出します。

⚠注意
「高温注意」を促すラベルが貼ってある周辺（定着部やその周辺）には、絶対に触れないでください。やけどの原因になるおそれがあります。

注記

●オイルカートリッジを抜き取るとき、オイルがたれるおそれがあります。機械内部や床にたらさないようにして注意してください。

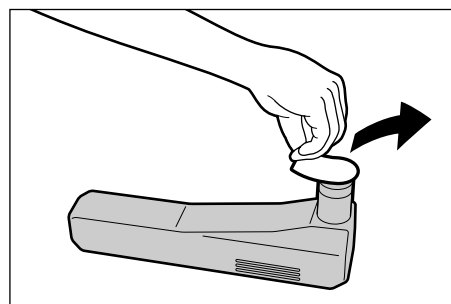
3 **オイルカートリッジを取り出します。**

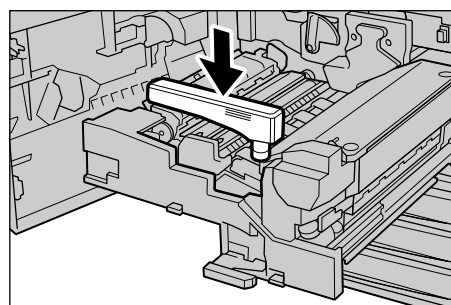
注記

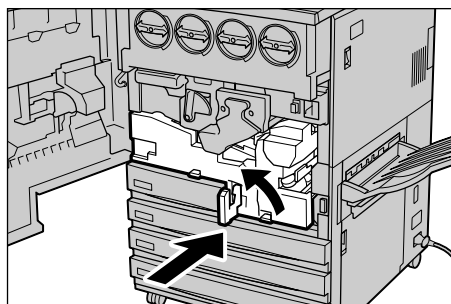
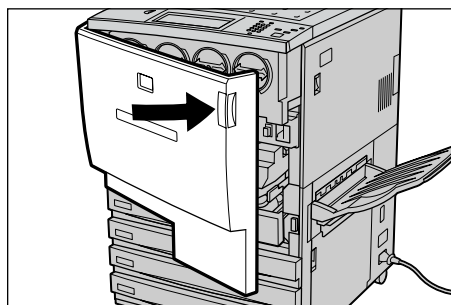
●取り出したオイルカートリッジは、機械の上などに置かないでください。必ず専用のポリ袋に入れてください。
●使用済みのオイルカートリッジは、弊社または販売店にお渡しください。

4 **使用済みのオイルカートリッジは、専用のポリ袋に入れます。**

5 **新しいオイルカートリッジを用意し、先端のシールをはがします。**

注記

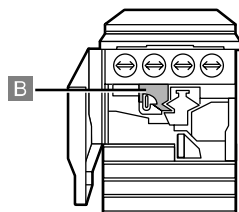
●オイルカートリッジのシールをはがさずに機械に挿入すると、オイル供給部が破損するおそれがありますので注意してください。

6 **オイルカートリッジの口を下に向け、右図のように機械に挿入し、止まるまで押し込みます。**

オイルカートリッジは、上端が水平になるように、止まるまで押し込んでください。

7 **転写ユニットを完全に奥まで押し込み、緑色のレバーを左に回します。**

レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから、再度押し込んでください。

8 **フロントカバーを閉じます。**

5.6 ドラムカートリッジBを交換する

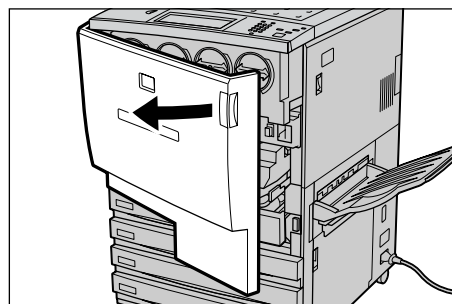
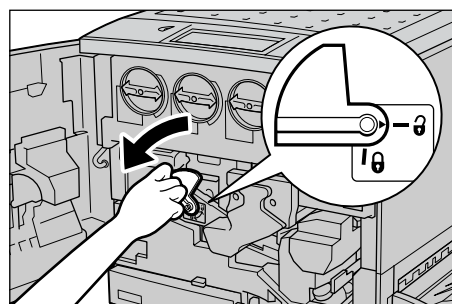
ドラムカートリッジは印刷画像を形成するための感光体ユニットです。ドラムカートリッジの交換時期になると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、新しいドラムカートリッジと交換してください。交換せずに印刷し続けると、メッセージ表示後、約5,000枚の印刷で機械は停止し、印刷できなくなります。印刷枚数は原稿によって異なります。

⚠注意　**ドラムカートリッジを、勢いよく引き出さないでください。ドラムカートリッジが飛び出し、けがの原因となるおそれがあります。**

注記
- ドラムカートリッジを、直射日光や室内蛍光灯の強い光に当てないでください。
- ドラムの表面に触れたり、傷をつけたりしないでください。きれいな印刷ができなくなることがあります。
- 使用済みのドラムカートリッジには処理が必要になるので、弊社または販売店にお渡しください。
- ドラムカートリッジを交換するときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

ドラムカートリッジ［B］の交換が必要です。

テレフォンセンターに連絡してください。

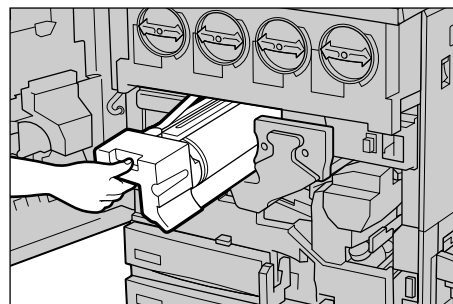
操作手順

1 機械が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。

2 中央のオレンジ色のレバーを、鍵印（開）まで左方向に回します。

注記

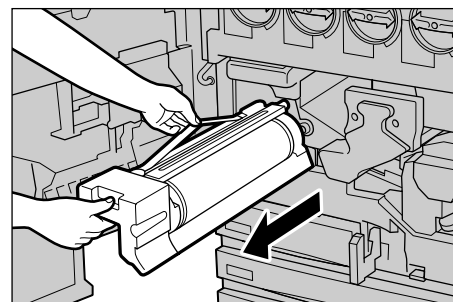
●ドラムカートリッジを取り出すとき、床に落とさないように注意してください。

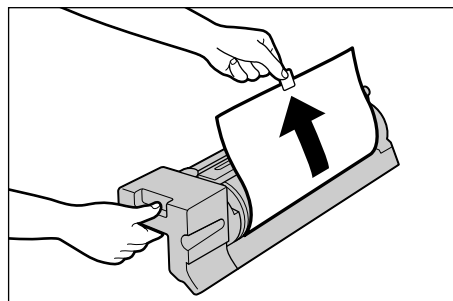
3 ドラムカートリッジ手前の取っ手をつかみ、上部の取っ手が見えるところまで静かに引き出します。

⚠注意

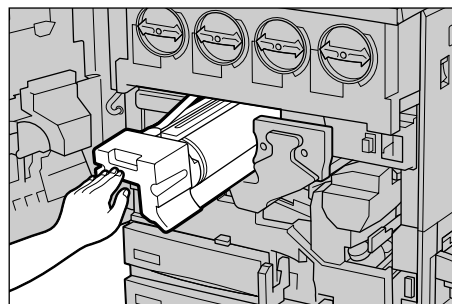
ドラムカートリッジを、勢いよく引き出さないでください。ドラムカートリッジが飛び出し、けがの原因となるおそれがあります。

4 上部の取っ手を持ち、ドラムカートリッジを静かに引き出して外します。

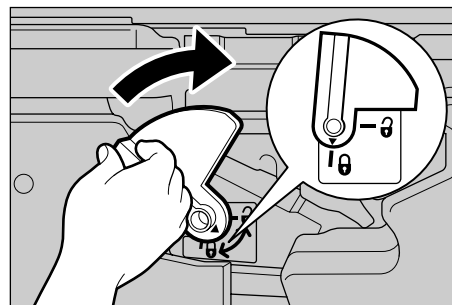
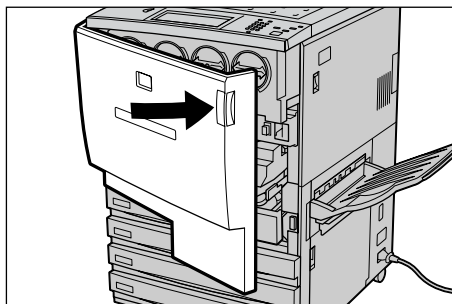
注記

●ドラムカートリッジを立てた状態で置かないでください。
●使用済みのドラムカートリッジは、弊社または販売店にお渡しください。
●ドラムの表面に触れたり、傷をつけたりしないでください。きれいな印刷ができなくなることがあります。

5 新しいドラムカートリッジを箱から取り出し、その箱に使用済みのドラムカートリッジを入れます。

6 新しいドラムカートリッジの保護シートを取ります。

7 ドラムカートリッジの上部の取っ手と、手前の取っ手を持ち、ドラムカートリッジの約半分を機械に差し込みます。

8 **ドラムカートリッジの手前の面を押し、奥に突き当たるまでしっかり差し込みます。**

正しくセットされると「カチッ」と音がします。

9 **オレンジ色のレバーを、鍵印（閉）まで右方向に回します。**

レバーが回らないときは、ドラムカートリッジを途中まで引き出してから再度押し込んでください。

10 **フロントカバーを閉じます。**

5.7 クリーニングカートリッジEを交換する

クリーニングカートリッジは、定着部内をクリーニングするシートです 。クリーニングカートリッジの交換時期になると、ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、新しいクリーニングカートリッジと交換してください。交換せずに印刷し続けると、メッセージ表示後、約2,000枚の印刷で機械は停止し、印刷できなくなります。印刷枚数は原稿によって異なります。

⚠注意

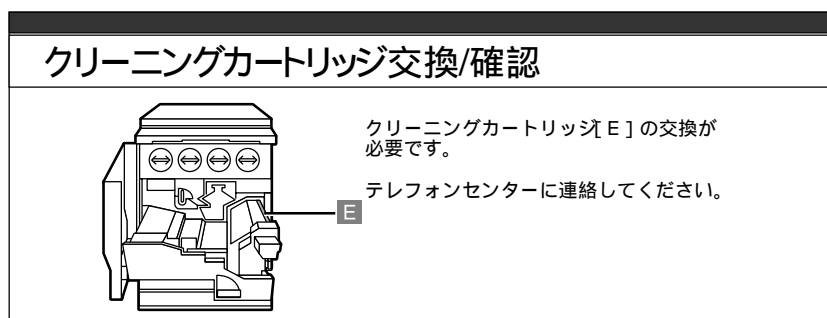
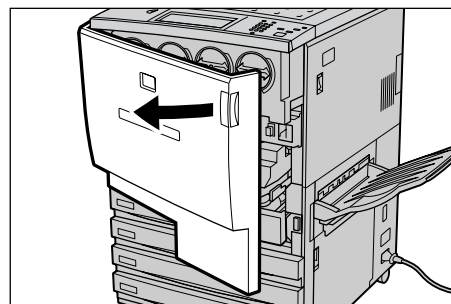
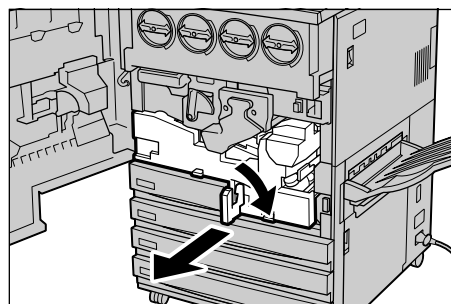
- 「高温注意」を促すラベルが貼ってある周辺（定着部やその周辺）には、絶対に触れないでください。やけどの原因となるおそれがあります。
- クリーニングカートリッジは、高温になっています。充分冷えてから操作してください。転写ユニットを引き出した状態で約20分放置すると、クリーニングカートリッジ中央部の取っ手の温度が安全に操作できる温度（約70°C）になります。
- クリーニングカートリッジは、外部が冷えた状態でも内側は高温になっています。取っ手以外の箇所には、触れないように注意して交換してください。
- クリーニングカートリッジを取り外した本体の内部は熱いので、シャッターの中には決して手を差し込まないでください。また、本体の内部に異物が落下した場合には、無理にとらないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。直ちに、電源スイッチを切り、弊社のテレフォンセンターまたは販売店に連絡してください。

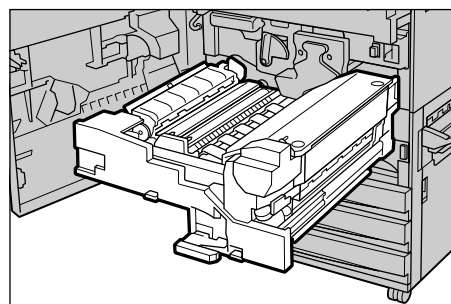
注記

- 使用済みのクリーニングカートリッジには処理が必要になるので、弊社または販売店にお渡しください。
- クリーニングカートリッジを交換するときは、プリンターの電源を入れたまま行ってください。電源を切ると、プリンター内に残っている印刷データや、プリンターのメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。

操作手順

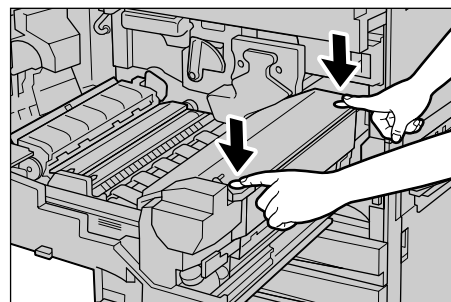
1 機械が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。

日常の管理 5

2 転写ユニット中央にある緑色のレバーを、右方向に水平になるまで回してから、転写ユニットを手前に引き出します。

⚠注意

クリーニングカートリッジは、高温になっています。充分冷えてから操作してください。転写ユニットを引き出した状態で約20分放置すると、クリーニングカートリッジ中央部の取っ手の温度が安全に操作できる温度（約70℃）になります。

3 定着部上部のオレンジ色のEボタン2箇所を、右図のように押します。

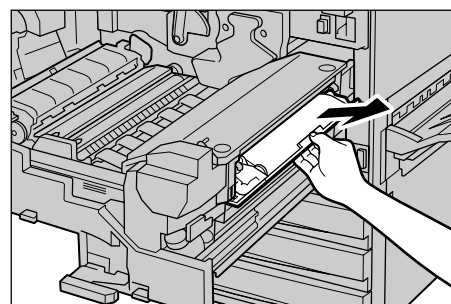
クリーニングカートリッジが開きます。

⚠注意

「高温注意」を促すラベルが貼ってある周辺（定着部やその周辺）には、絶対に触れないでください。やけどの原因になるおそれがあります。

4 クリーニングカートリッジ中央のオレンジ色の取っ手部分に親指をかけ、クリーニングカートリッジ側面のくぼみを持ち、矢印方向に浮かせるように取り出します。

クリーニングカートリッジを取り出すと、シャッターが下ります。

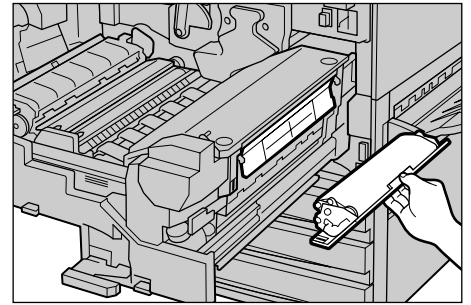
⚠注意

クリーニングカートリッジは、外部が冷えた状態でも内側は高温になっています。取っ手以外の箇所には、触れないように注意して交換してください。

注記

- **クリーニングカートリッジは、まっすぐに取り出してください。傾いたまま取り出すと、破損やけがの原因となる恐れがあります。**

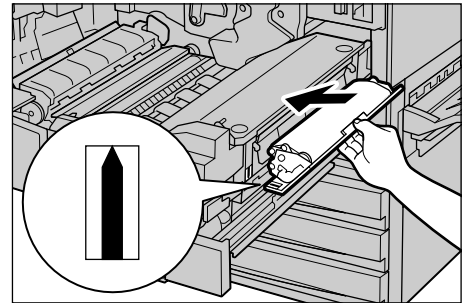
⚠注意

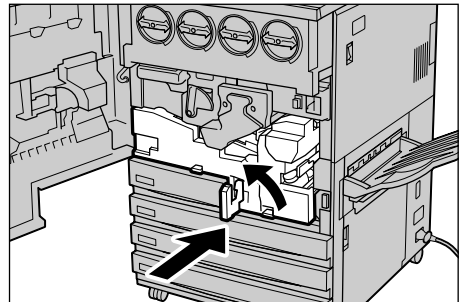
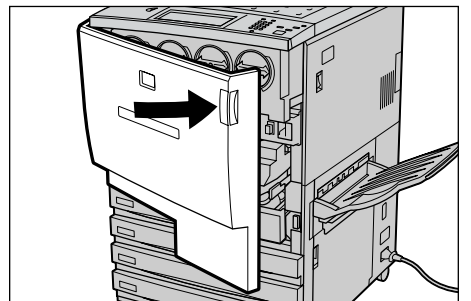
クリーニングカートリッジを取り外した本体の内部は熱いので、シャッターの中には決して手を差し込まないでください。また、本体の内部に異物が落下した場合には、無理にとらないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。直ちに、電源スイッチを切り、弊社のテレフォンセンターまたは販売店に連絡してください。

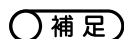
注記

●使用済みのクリーニングカートリッジは、弊社または販売店にお渡しください。

5 **新しいクリーニングカートリッジを箱から取り出し、その箱に使用済みのクリーニングカートリッジを入れます。**

6 **クリーニングカートリッジの矢印マーク（右図）と、本体の矢印マークの先端を合わせて、滑り込ませるように機械に装着し、止まるまで押し込みます。**

「カチッ」という音とともに、2か所のEボタンが上がるのを確認します。

7 **転写ユニットを完全に奥まで押し込み、緑色のレバーを左に回します。**

レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから、再度押し込んでください。

8 **フロントカバーを閉じます。**

5.8 総印刷枚数を確認する

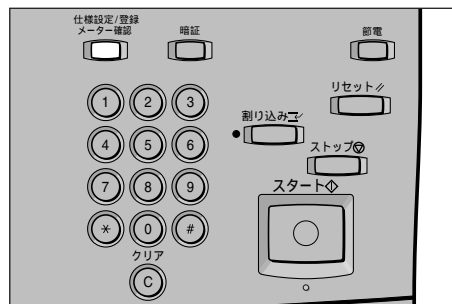
EPシステムが装着されている場合は、本機で印刷した総枚数をメーター確認画面で確認することができます。現在までと締め時ごとのメーターが確認できます。

補足 ● EPシステムについては、「付録B EPシステムについて」を参照してください。

■総印刷枚数を確認する

メーター確認画面には2つのメーターの総印刷枚数が表されます。印刷すると、その印刷の種類に該当するメーターが加算されます。

カラーモード	加算されるメーター
白黒	メーター1
カラー	メーター2

操作手順

1 仕様設定/登録メーター確認 ボタンを押します。

設定項目画面が表示されます。

2 メーター確認 を選択します。

メーター確認画面が表示されます。
毎月の締め時に自動通知したカウントも表示されます。

3 **確認後、閉じるを選択します。**
設定項目画面に戻ります。

4 **閉じるを選択します。**

付録

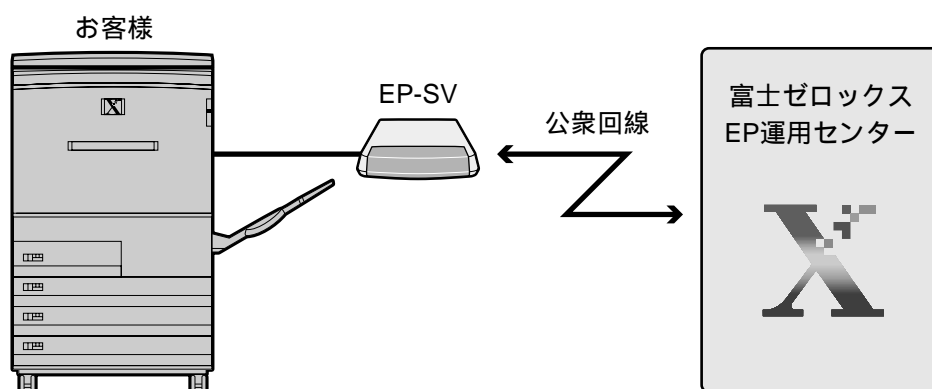
A 主な仕様

DocuPrint C1255の主な仕様を記載します。製品の仕様、外観は改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

形式	床上型（コンソールタイプ）レーザープリンター
プリント方式	半導体レーザー方式 ゼログラフィ方式
プリント速度	50枚/分（白黒モード） 12.5枚/分（カラーモード） 記録条件 ： A4▯（同一内容を連続印刷）
ウォームアップタイム	電源投入後9分10秒以内（室温20℃、湿度60%の場合）
解像度/階調	600ドット/25.4mm（600dpi）/256階調（文字印刷は2400ドット/25.4mm（2400dpi）相当）
給紙方式	フロントローディング方式
用紙サイズ	用紙トレイ1 ： A4 用紙トレイ2、3、4 ： B5～A3 用紙トレイ5（手差し）： A5～SRA3（320×450mm/12.6×17.7インチ）、官製はがき、定型外
用紙トレイ容量	用紙トレイ1 ： 560枚（P紙） 530枚（J紙） 用紙トレイ2～4 ： 620枚（P紙） 580枚（J紙） 用紙トレイ5（手差し）： 150枚（P紙） 140枚（J紙） 15mmまで
排出トレイ容量	500枚（P紙）
電源	100V（Min. 90V～Max. 110V）・15A、50/60Hz
最大消費電力	1.5kW（本体のみ）
画質保証環境	温度 ： 10～35℃ 湿度 ： 15～85%RH（結露のないこと） 温度が35℃のときは湿度47.5%以下、湿度が85%のときは温度27.8℃以下でお使いください。
大きさ	幅620×奥行788×高さ987mm（本体のみ）
機械占有寸法	幅1393×奥行788mm（用紙トレイ5（手差し）含まず）（本体のみ）
質量	約181kg（本体のみ）

付録B EPシステムについて

EP（エレクトロニック・パートナーシップ）とは、本機と弊社のEP運用センターを公衆回線で結ぶことで、機械のさまざまな管理業務を自動化するシステムです。
ここでは、本機でEPシステムを使用する場合の操作について説明しています。

補足
- EPシステムのサービスは、機械の電源が切られている状態では利用できません。
- EPシステムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

EPシステムで利用できるサービスは以下のとおりです。

① **メーターカウントの自動検針**
毎月、設定した日時にメーターのカウントを機械が自動的に弊社に通知します。
この締め時カウントは、仕様設定/登録メーター確認 ボタンを押すとディスプレイで確認することができます。

② **機械の点検/修理依頼**
機械の点検や修理が必要になった場合、点検/修理依頼を行うと、機械が弊社のテレフォンセンターに点検/修理依頼の連絡をします。連絡を受けると、必要に応じてカストマーエンジニアが訪問します。この操作は、機械を管理する機械担当者が行ってください。

③ **機械異常時の自動通報**
機械に異常が発生した場合、機械は自己診断をして自動的に弊社のテレフォンセンターに異常の通報をします。
通報を受けると、カストマーエンジニアが訪問します。

④ **機械消耗品の適時配送**
トナーカートリッジなど機械消耗品の使用数量を弊社に通知します。お客様の使用実績に基づき、機械消耗品の配送を行います。

⑤ **各種設定のリモート変更**
機械の各種設定を、ご要望に応じて弊社からリモートで変更することができます。設定内容の詳細については、弊社のテレフォンセンターにお問い合わせください。

索引

英数

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

ク

ケ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

テ

ト

ニ

ハ

ヒ

フ

ミ

メ

ヨ

リ

レ

ロ

ワ

マニュアルコメント用紙

本書をより使いやすいものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、誤植、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、マニュアルに関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

マニュアル名	DocuPrint C1255取扱説明書（本体管理編）	管理番号	DE-0587

（ご氏名）

（会社名）

（所属部門）

（電話番号）　　内線

（所在地）

ページ	行	内容へのご意見/ご要望

富士ゼロックス記入欄	受付No.	受付担当印

1版

キリトリ線

富士ゼロックス(株)社内メール扱い

キ
リ
ト
リ
線

ドキュメントエンジニアリング 部　行

担当社員：　事業部　営業所　課

氏名

● ご記入後は、点線の部分で折り込み、ホチキスなどでとめたうえ、弊社の担当者にお渡しください。

● このままで郵便物として投函しないようご注意ください。

保守・操作のお問い合わせは

この商品の保守・操作のお問い合わせは、テレフォンセンター(または販売店)へご連絡ください。

- テレフォンセンターの電話番号は、機械に貼付してあるラベル、またはカードに記載されています。
- ご連絡の際は、ラベル、またはカードに記載されている「機種名」および「機械番号」をお知らせください。

お問い合わせ先が不明の際は、お買い上げの販売店、または営業所へご連絡ください。

富士ゼロックスグループの営業所一覧

営業事業部・支店・営業所

営業所	電話番号
第一中央販売本部	(03) 3584 - 3211
第二中央販売本部	(03) 3584 - 3211
地域販売本部	
北日本営業事業部	(022) 221 - 7652
北海道支店	(011) 241 - 7341
仙台支店	(022) 221 - 7651
福島支店	(0245) 22 - 9211
青森営業所	(0177) 75 - 2741
秋田営業所	(0188) 62 - 4406
山形営業所	(0236) 31 - 2662
盛岡営業所	(019) 623 - 5475
北関東営業事業部	(03) 5814 - 0702
茨城支店	(029) 221 - 7575
埼玉支店	(048) 641 - 5012
新潟営業所	(025) 247 - 2211
宇都宮営業所	(028) 622 - 4111
群馬営業所	(0273) 26 - 1721
南関東営業事業部	(03) 5814 - 0704
千葉支店	(043) 297 - 2361
神奈川支店	(045) 224 - 1302
山梨営業所	(0552) 26 - 5731
ニューマーケティング営業部	(0120) 84- 2209
ドキュメントソリューション営業部	(045) 224 - 1954
東京第一営業事業部	(03) 3348 - 4551
ドキュメントソリューション第一営業部	(03) 3348 - 1891
ドキュメントソリューション第二営業部	(03) 3293 - 1459
ネットワークソリューション第一支店	(03) 5418 - 7280
ネットワークソリューション第二支店	(03) 5418 - 7270
ネットワークプリンティングシステム第一支店	(03) 3552 - 1411
ネットワークプリンティングシステム第二支店	(03) 3293 - 1452
ネットワークプリンティングシステム第三支店	(03) 3354- 0511
クリエーションビジネス支店	(03) 3354 - 5901
ニューマーケティング営業部	(03) 3348- 1898
東京第二営業事業部	(03) 3348- 4115
ドキュメントソリューション営業部	(03) 3348 - 1820
城東支店	(03) 5828 - 6221
城南支店	(03) 5423 - 5111
城西支店	(03) 3400 - 5161
城北支店	(03) 3981 - 3221
東京西支店	(042) 524 - 8111

営業所	電話番号
中部営業事業部	(052)583-1741
名古屋第一支店	(052) 583 - 4521
名古屋第二支店	(052) 583 - 9621
東愛知支店	(0566) 83 - 1771
静岡支店	(054) 255 - 2361
長野支店	(026) 227 - 0769
北陸支店	(076) 222 - 2591
沼津オフィス	(0559) 63 - 1324
浜松営業所	(053) 454 - 8365
岐阜営業所	(058) 276 - 1311
福井営業所	(0776) 23 - 0442
富山オフィス	(0764) 31 - 8751
三重営業所	(059) 226 - 1924
大阪営業事業部	(06)6271-8352
京都支店	(075) 241 - 0281
大阪第一支店	(06) 6271- 5285
大阪第二支店	(06) 6315 - 7200
大阪北支店	(06) 6305 - 3941
大阪南支店	(06) 6633 - 5923
大阪東営業所	(06) 6747-2680
神戸支店	(078) 272 - 4411
滋賀営業所	(0775) 22 - 4685
阪神営業所	(06) 6412 - 4631
姫路営業所	(0792) 82 - 3030
奈良営業所	(0742) 26 - 6811
和歌山営業所	(0734) 33 - 1460
中国四国営業事業部	(082)262-2018
岡山支店	(086) 225 - 7231
広島支店	(082) 262 - 2011
山口営業所	(0839) 24 - 0600
山陰営業所	(0852) 21 - 9494
高松営業所	(0878) 34 - 2111
松山営業所	(089) 941 - 5661
九州営業事業部	
福岡支店	(092) 411 - 9100
北九州営業所	(093) 541 - 2681
佐賀営業所	(0952) 26 - 8750
長崎営業所	(095) 824 - 0911
大分営業所	(0975) 34 - 3463
熊本営業所	(096) 322 - 3131
宮崎営業所	(0985) 25 - 8383
鹿児島営業所	(099) 253 - 1881
沖縄営業所	(098) 863 - 8866

地区販売会社

会社	電話番号
北海道ゼロックス株式会社	(011) 271 - 4533
岩手ゼロックス株式会社	(019) 653 - 5519
宮城ゼロックス株式会社	(022) 221 - 2131
福島ゼロックス株式会社	(0249) 27 - 1011
群馬ゼロックス株式会社	(0273) 61 - 1431
栃木ゼロックス株式会社	(028) 637 - 5111
茨城ゼロックス株式会社	(029) 229 - 2911
埼玉ゼロックス株式会社	(048) 647 - 3211
千葉ゼロックス株式会社	(043) 221 - 2711
東京ゼロックス株式会社	(03) 3205 - 7211
多摩ゼロックス株式会社	(042) 645 - 4851
神奈川ゼロックス株式会社	(045) 681 - 1101
新潟ゼロックス株式会社	(025) 246 - 1313
長野ゼロックス株式会社	(026) 227 - 1231
静岡ゼロックス株式会社	(054) 255 - 4431
北陸ゼロックス株式会社	(076) 260 - 0900
愛知東ゼロックス株式会社	(0532) 32 - 7601
愛知ゼロックス株式会社	(052) 201 - 7141
岐阜ゼロックス株式会社	(058) 276 - 3058
三重ゼロックス株式会社	(059) 228 - 7561
京都ゼロックス株式会社	(075) 255 - 3091
大阪ゼロックス株式会社	(06) 6281- 1501
奈良ゼロックス株式会社	(0742) 27 - 7801
兵庫ゼロックス株式会社	(078) 232 - 3341
四国ゼロックス株式会社	(0878) 23 - 4565
岡山ゼロックス株式会社	(086) 243 - 1051
広島ゼロックス株式会社	(082) 243 - 3221
山口ゼロックス株式会社	(0836) 21 - 1147
北九州ゼロックス株式会社	(093) 531 - 3313
福岡ゼロックス株式会社	(092) 271 - 3111
長崎ゼロックス株式会社	(095) 822 - 3330
熊本ゼロックス株式会社	(096) 367 - 2220
鹿児島ゼロックス株式会社	(099) 254 - 4222
株式会社テクノル	(0178) 47 - 8311
秋田ゼロックス株式会社	(0188) 23 - 4645
山形ゼロックス株式会社	(0236) 24 - 2468
株式会社テクノ山梨	(0552) 33 - 3151
福井ゼロックス株式会社	(0776) 34 - 3666
和歌山ゼロックス株式会社	(0734) 46 - 4300
株式会社ケーオウエイ	(0859) 35 - 5550
株式会社ミック	(0852) 27 - 0329
大分ゼロックス株式会社	(0975) 56 - 7112
株式会社ソアー	(0952) 33 - 0694
宮崎電子機器株式会社	(0985) 20 - 7666
沖縄ゼロックス株式会社	(098) 867 - 1415

営業所名、電話番号は変更になることがあります。(1999年2月現在)

富士ゼロックスに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターへご連絡ください。

フリーダイヤル 0120-27-4100

(フリーダイヤル受付時間:土、日、祝日を除く9～12時、13～17時、東京でお受けします。
ただし、通話地域制限がある内線電話機からはご利用できません。全国通話ができる電話機をご使用ください。)

インターネットホームページで商品情報を提供しています。アクセス先は、http://www.fujixerox.co.jp

DocuPrint C1255 取扱説明書(本体管理編)

著作者 — 富士ゼロックス株式会社
ドキュメントエンジニアリング部

発行年月 — 1999年7月　第1版

発行者 — 富士ゼロックス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-22
電話 03 (3585) 3211

Printed in Japan

DocuPrint C1255

取扱説明書　（本体管理編）

THE DOCUMENT COMPANY

FUJI XEROX

この説明書はエコマーク商品に認定
された再生紙を使用しています。

1 版
1999 年 7 月
891E78940
帳票 No. DE-0587